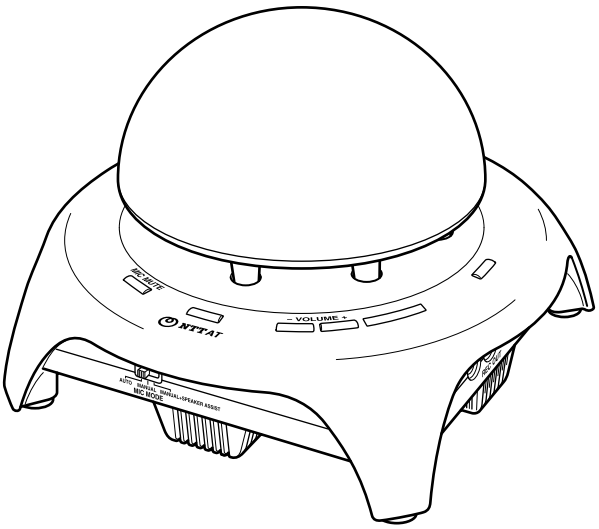
会議用マイク・スピーカ

RealTalk R7

取扱説明書

第１版　　2010年６月１日



NTT アドバンステクノロジ株式会社

技術基準適合認証品

©2010 NTT Advanced Technology Corporation. All Rights Reserved.
REALTALK は、NTT アドバンステクノロジ株式会社の商標です。
本取扱説明書の記載内容についての版権は、NTT アドバンステクノロジ株式会社に帰属します。許可なく複製・改変・転用することはできません。

目　次

目　次 3
安全にお使いいただくために 4

お使いになる前に 8

セットの確認 8
特　長 9
各部の名称 12
電話機と接続する 18
携帯電話と接続する 20
テレビ電話と接続する（オーディオケーブルでの接続） 22
パソコンと接続する（USB 接続） 24
パソコンの設定を確認する（Windows Vista） 26
パソコンの設定を確認する（Windows XP） 30

使用方法 34

ハンズフリーで通話する 34
音量を調整する 38
マイクの収音範囲を設定する 42
複数台を接続して使う 44
通話を録音する 48

付　録 49

お買い求め時の設定に戻す（初期化） 49
トラブルシューティング 50
索　引 54
仕　様 55

安全にお使いいただくために

この取扱説明書には、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本商品を安全にお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。
その表示と図記号の意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。
本書を紛失または損傷したときは、お買い求めになった販売店でお求めください。

本書中のマーク説明

⚠警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
STOP お願い	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、本商品の本来の性能を発揮できなかったり、機能停止を招く内容を示しています。
お知らせ	この表示は、本商品を取り扱ううえでの注意事項を示しています。
ワンポイント	この表示は、本商品を取り扱ううえで知っておくと便利な内容を示しています。

ご使用にあたってのお願い

本商品は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。本商品は家庭環境で使用することを目的としていますが、本商品がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

- 本商品の仕様は国内向けとなっておりますので、海外ではご利用できません。
  This equipment is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.
- 本商品の故障、誤動作、不具合、あるいは停電などの外部要因によって、通信などの機会を逸したために生じた損害などの純粋経済損失につきましては、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容につきましては万全を期しておりますが、お気づきの点がございましたら、お買い求めになった販売店へお申しつけください。
- 本商品の外観および機能などの仕様は、お客様にお知らせすることなく変更される場合があります。
- 記載している画面はイメージを説明したものです。実際の画面と相違している場合がありますので、詳細は本商品にてご確認ください。また、機能向上のため画面は予告なしに変更される場合があります。

Microsoft、Windows および Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
その他の社名および製品名は、それぞれの会社の登録商標または商標です。
なお、本文中に ™、® マークは明記しておりません。
Microsoft Corporation のガイドラインに従って画面写真を使用しています。

設置について

⚠警告

- 本商品や電源アダプタのそばに、水や液体の入った花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬用品などの容器、または小さな金属類を置かないでください。本商品や電源アダプタに水や液体がこぼれたり、小さな金属類が中に入った場合、火災・感電の原因となることがあります。
- 本商品や電源アダプタを次のような環境に置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。
  - 屋外、直射日光が当たる場所、暖房設備やボイラーの近くなどの温度が上がる場所。
  - 調理台のそばなど、油飛びや湯気の当たるような場所。
  - 湿気の多い場所や水・油・薬品などのかかるおそれがある場所。
  - ごみやほこりの多い場所、鉄粉、有毒ガスなどが発生する場所。
  - 製氷倉庫など、特に温度が下がる場所。

お取り扱いについて

⚠警告

- 電源は、AC100 Vの商用電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 電源プラグは、電源コンセントの奥まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと、火災・感電の原因となることがあります。
- 電源アダプタは必ず付属のものを使用し、それ以外のものは絶対にお使いにならないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- テーブルタップや分岐コンセント、分岐ソケットを使用した、タコ足配線はしないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 電源プラグは、ほこりが付着していないことを確認してから電源コンセントに差し込んでください。また、半年から1年に1回は、電源プラグを電源コンセントから抜いて点検、清掃をしてください。ほこりにより、火災・感電の原因となることがあります。なお、点検に関してはお買い求めになった販売店にご相談ください。
- 万一、煙が出ている、変なにおいがするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。すぐに電源プラグを電源コンセントから抜いて、煙が出なくなるのを確認し、お買い求めになった販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。
- 万一、本商品を落としたり、キャビネットを破損した場合、または、本商品内部や電源アダプタに異物や水などが入った場合は、すぐに電源プラグを電源コンセントから抜いて、お買い求めになった販売店に修理をご依頼ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。
- 本商品を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となることがあります。内部の点検、調整、清掃、修理はお買い求めになった販売店にご依頼ください（分解、改造された商品は修理に応じられない場合があります）。
- 電源アダプタコードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、束ねたりしないでください。また、重い物をのせたり、加熱したりするとコードが破損し、火災・感電の原因となることがあります。コードが傷んだらお買い求めになった販売店に修理をご依頼ください。
- 電源アダプタコードが傷んだ状態（芯線の露出、断線など）のまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。すぐに電源プラグを電源コンセントから抜いて、お買い求めになった販売店に修理をご依頼ください。
- 本商品や電源アダプタに水をかけたり、ぬれた手で本商品の操作や電源プラグの抜き差しをしないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 本商品をお手入れするときは、電源プラグを電源コンセントから抜いて行ってください。火災・感電の原因となることがあります。
- 本商品のそばで可燃性スプレーを使用しないでください。スプレーのガスが本商品内部の部品などに付着すると、火災・感電の原因となることがあります。

（次ページへ続く）

⚠警告

- 本商品のお手入れには、アルコール、ベンジン、シンナーなどの引火性溶剤は使用しないでください。引火性溶剤が本商品内部の部品に付着したり、揮発性ガスが本商品内部に充満すると、火災・感電の原因となることがあります。
- 本商品の開口部などから内部に金属類や燃えやすいものなどの、異物を差し込んだり、落としたりしないでください。万一、異物が入った場合は、すぐに本商品の電源プラグを電源コンセントから抜いて、お買い求めになった販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。
- 医療機器や高い安全性が要求される用途では使用しないでください。人が死亡または重傷を負う可能性があり、社会的に大きな混乱が発生するおそれがあります。
- 本商品を移動するときは、電源プラグを抜いたことを確認してから行ってください。電源プラグが差し込まれたまま移動すると、電源アダプタコードなどが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
- 電源プラグを電源コンセントから抜くときは、必ず電源プラグを持って抜いてください。電源アダプタコードを引っ張るとコードが傷つき、火災・感電や断線の原因となることがあります。
- 本商品や電源アダプタコードを熱器具に近づけないでください。キャビネットやコードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- 近くに雷が発生したときは、電源プラグを電源コンセントから抜いてご使用を控えてください。雷による、火災・感電の原因となることがあります。
- 本商品の開口部をふさがないでください。開口部をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

設置について

⚠注意

- 本商品をぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。また、本商品の上に重いものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。
- 屋外に渡る配線は行わないでください。特に建物から建物へ空中を通す配線は雷などによる故障の原因となることがあります。
- 本商品をリング状にカスケード接続すると、ハウリング（ピーと大きな音が鳴る）を生じますのでおやめください。
- 本商品をリング状に多地点接続をすると、ハウリング（ピーと大きな音が鳴る）を生じますのでおやめください。

お取り扱いについて

⚠注意

- 本商品を長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず本商品の電源プラグを電源コンセントから抜いてください。
- 本商品に乗らないでください。特に小さなお子様のいるご家庭では、ご注意ください。倒れたり、こわしたりしてけがの原因となることがあります。
- 本商品の底面には、ゴム製のすべり止めを使用していますので、ゴムとの接触面が、まれに変色するおそれがあります。
- 本商品の電源を入／切するときや USB ケーブル、オーディオケーブル、ハンドセットコード、カスケード接続ケーブルを抜き差しするときは、耳をスピーカから離してください。スピーカからの大音量により人的傷害が発生する可能性があります。
- 通話中に本商品の電源を切ったり入れたりしないでください。通話中に USB ケーブルやオーディオケーブル、ハンドセットコード、カスケード接続ケーブルを抜き差ししないでください。本商品や通話相手のスピーカからの大音量により人的障害が発生する可能性があります。

設置について

STOP お願い

- 本商品を電気製品・AV・OA 機器などの磁気を帯びているところや電磁波が発生しているところに置かないでください（電子レンジ、スピーカ、テレビ、ラジオ、蛍光灯、電気こたつ、インバータエアコン、電磁調理器など）。
  - 磁気や電気雑音の影響を受けると雑音が大きくなったり、通話ができなくなることがあります（特に電子レンジ使用時には影響を受けることがあります）。
  - テレビ、ラジオなどに近いと受信障害の原因となったり、テレビ画面が乱れることがあります。
  - 放送局や無線局などが近く、雑音が大きいときは、本商品の設置場所を移動してみてください。
- 硫化水素が発生する場所（温泉地）や、塩分の多いところ（海岸）などでは、本商品の寿命が短くなることがあります。

お取り扱いについて

STOP お願い

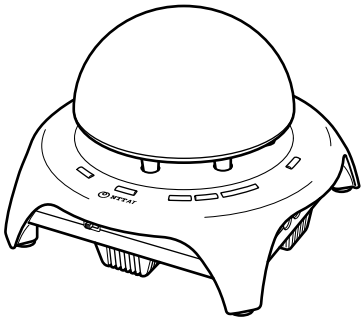
- 電源を再度入れる場合は、電源を切った状態から 5 秒以上経ったあとに行ってください。
- 本商品を落としたり、強い衝撃を与えないでください。故障の原因となることがあります。
- 本商品をぬれた雑巾、ベンジン、シンナー、アルコールなどでふかないでください。本商品の変色や変形の原因となることがあります。汚れがひどいときは、薄い中性洗剤をつけた布をよくしぼって汚れをふき取り、やわらかい布でからぶきしてください。
- 本商品の電源プラグを抜いたままにしないでください。電源が入っていないと使用できません。
- ハンズフリー通話のとき、以下の点に注意してください。
  - マイクの前には、ものなどを置かないでください。
  - マイクを手で覆わないでください。「ピー」と鳴ることがあります。
  - 以下のような場合、スピーカからの音が途切れることがあります。
    - ・相手のお話しが終わらないうちに、こちらから話しかけたとき
    - ・相手と同時に話し始めたとき
    - ・周囲の騒音が大きい場所に置いたとき

お使いになる前に

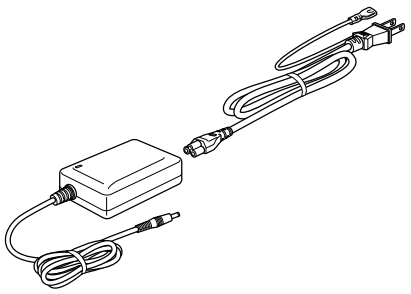
セットの確認

ご使用の前に、以下のものがそろっていることをご確認ください。
万一、不足があった場合は、お買い求めになった販売店にご連絡ください。

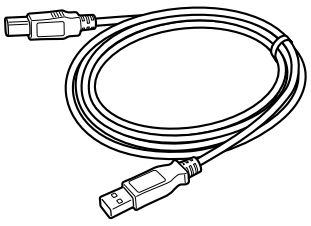
□**本体（1 台）**



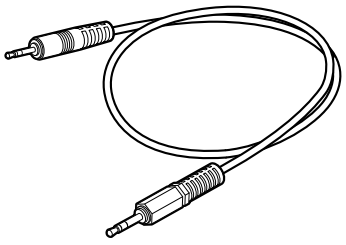
□**電源アダプタ（1 組）**



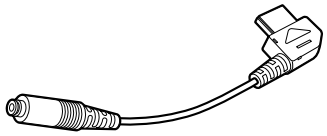
□**USB ケーブル（約 3 m）（1 本）**



□**3.5 mm プラグ⇔2.5 mm プラグ ステレオオーディオケーブル（約 50 cm）（1 本）**



□**2.5 mm ジャック⇔携帯電話接続ケーブル（約 5 cm）（1 本）**



☑**取扱説明書（本書）（1 部）**

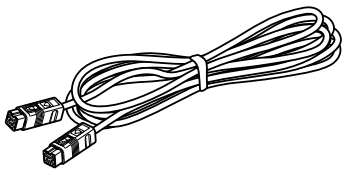
□**保証書（1 枚）**

必要に応じて、以下のオプション品または市販のケーブルを別途お買い求めください

●オプション品

本商品を複数台接続する場合は、オプション品のカスケード接続ケーブルを必要数ご用意ください。例えば、本商品 3 台をカスケード接続する場合は、カスケード接続ケーブルが 2 本必要です。

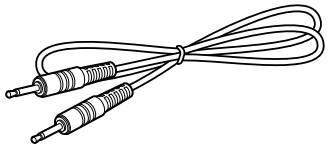
カスケード接続ケーブル（約 5 m）



●お客様にご用意いただくもの

通話録音される場合は、市販のモノラルオーディオケーブル（3.5 mm プラグ⇔録音装置の端子と適合するプラグ）をご用意ください。3.5 mm プラグのステレオオーディオケーブルも使用可能ですが、音声出力はモノラルです。

通話録音用オーディオケーブル（例）



 ※形状は一例です。

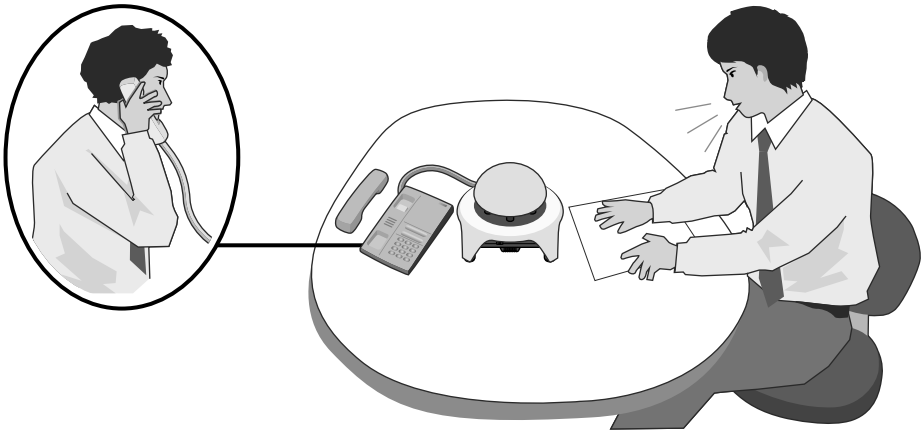
特　長

本商品は、電話機や携帯電話、パソコンを接続してハンズフリー通話を行う装置です。
NTT サイバースペース研究所の最先端技術を利用した、さまざまな機能を搭載しています。

■電話機、携帯電話、パソコンによるハンズフリー通話

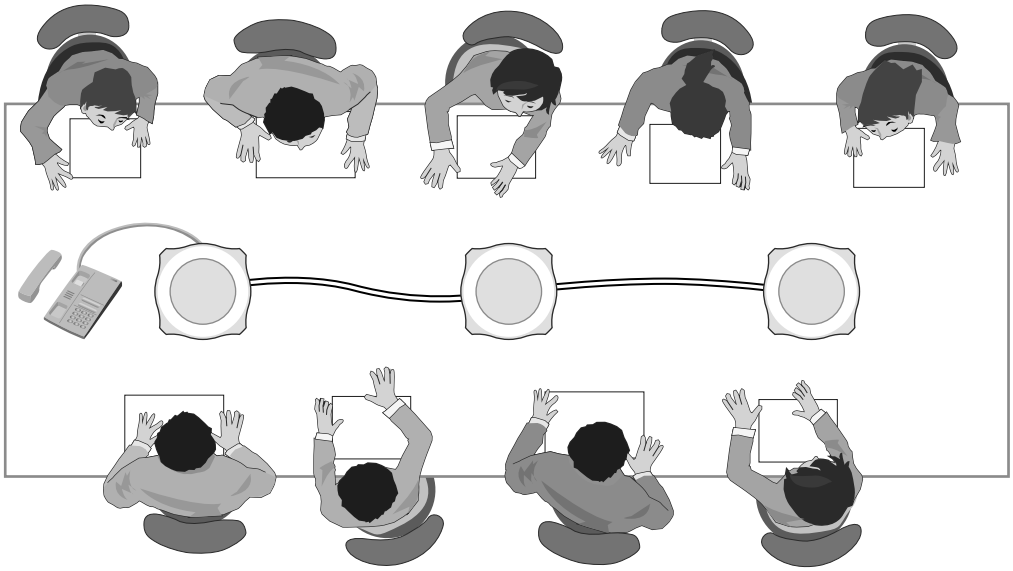
電話機と接続して簡単に電話会議を行えます。電話機とはハンドセットコードで接続するので、電話機の種類にかかわらず使用できます。

・ 携帯電話と接続して、電話回線のない場所でも電話会議を行えます。
・ パソコンを利用した Web 会議システムのスピーカ、マイクとして使用できます。パソコンとは USB ケーブルでつなぐだけで使用できます。ドライバのインストールは必要ありません。



■複数台を接続して広い会議室に対応

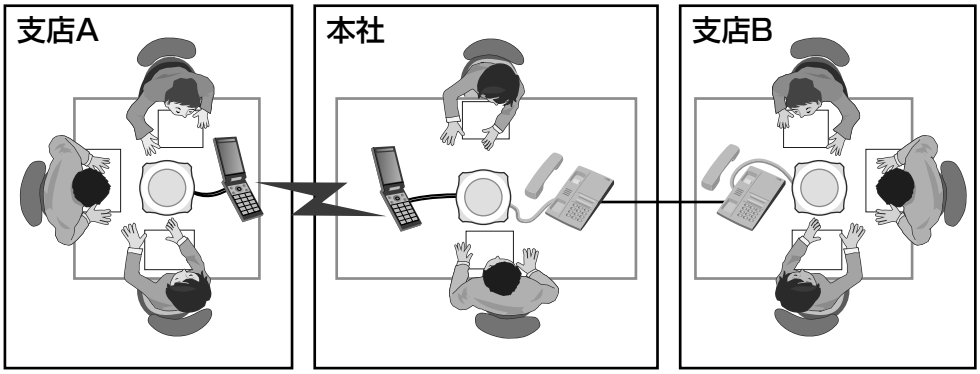
広い会議室で利用する場合は、本商品を最大 6 台までカスケード接続して設置することができます。



（次ページへ続く）

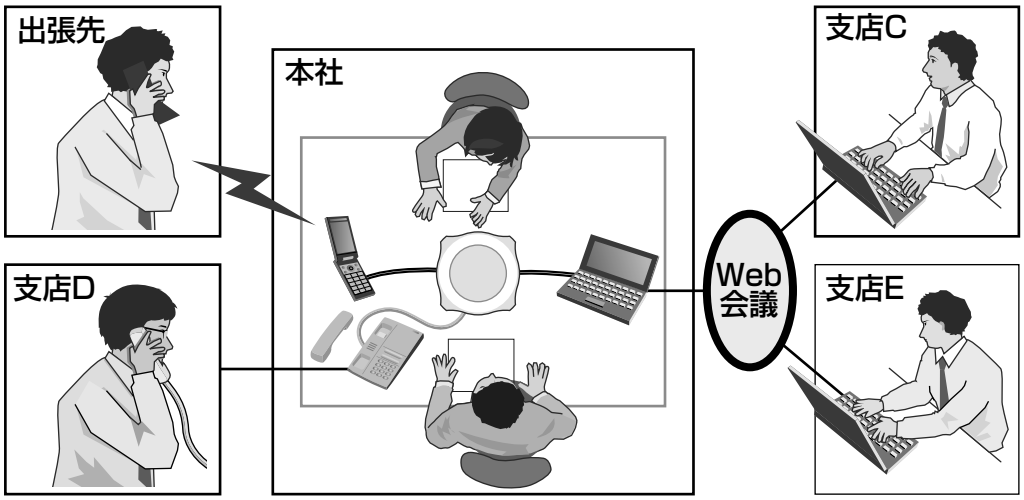
■3 地点電話会議

携帯電話と電話機を利用して、3 地点電話会議を実施できます。



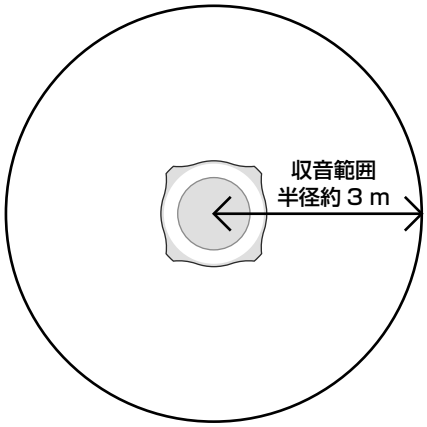
■電話機接続、携帯電話接続、パソコン接続の同時利用

電話機や携帯電話、パソコンを接続して、電話会議と Web 会議を混在させた会議を実施できます。



■収音範囲は半径約 3 m

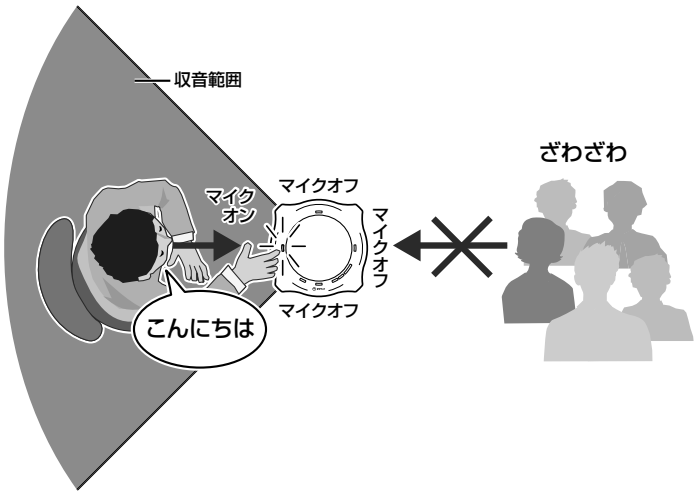
半径約 3 m まで十分な音量で収音することができます。



■エリア収音機能（マイクボタンによるマイクのオン／オフ）

4 つのマイクのうち、お話しする人がいる方向のマイクのみをオンにできるので、不要な雑音を消去することができます。

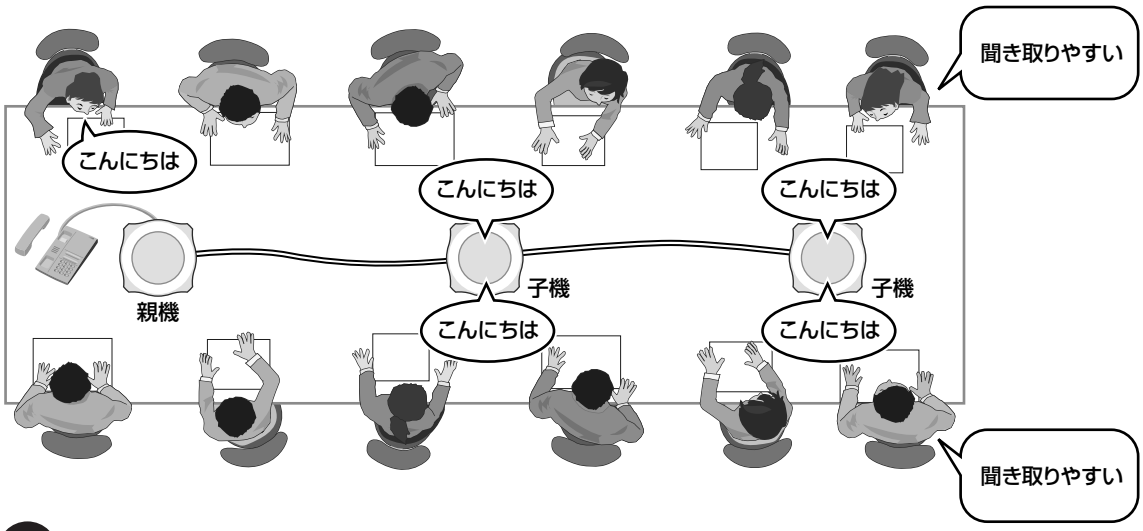
※エリア収音機能（マイクボタンによるマイクのオン／オフ）は、マイクモードスイッチ（MIC MODE）を「手動設定モード」や「手動設定モード+会話アシスト機能」にしたときに設定できます。



■会話アシスト機能

本商品を複数台利用した際に、同じ部屋にいる離れた人と快適に会話ができる機能です。お話ししている人から離れた本商品から、お話ししている人の音声を送出します。離れた場所でもお話ししている人の音声が十分な音量で聞こえます。

※会話アシスト機能は、親機のマイクモードスイッチ（MIC MODE）を「手動設定モード+会話アシスト機能」にしたときに利用できます。

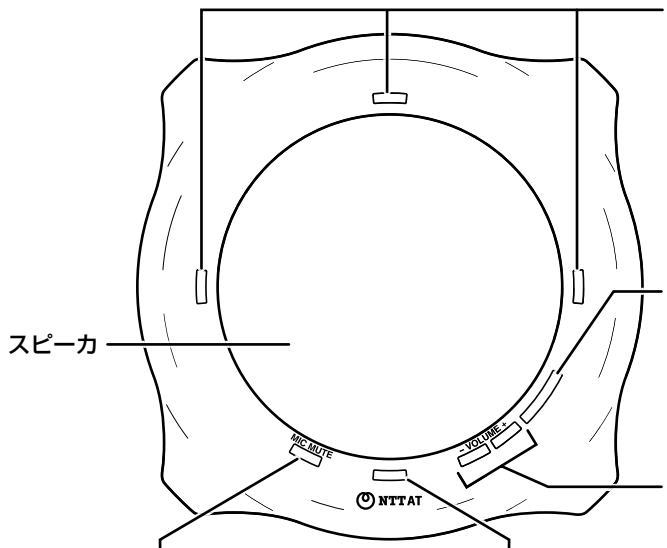


STOP お願い

- 本商品には音質を改善する機能はありません。スピーカからの音質は、ご使用になる回線の品質やパソコンの通信アプリケーション、通信機器に依存します。
- 本商品には通信機能はありません。Web 会議やテレビ電話でご使用になるには、通信アプリケーションがインストールされたパソコンまたは通信機器に接続する必要があります。詳しくは、ご使用の通信アプリケーションや通信機器の取扱説明書を参照してください。
- ソフトウェアエコーキャンセラまたは AGC 機能が搭載されている Web 会議アプリケーションや VoIP 電話ソフトをお使いの場合は、本商品のエコーキャンセラが正常に動作しないことがあります。Web 会議アプリケーションや VoIP 電話ソフトは、これらの機能をオフに設定できるものをご利用のうえ、設定をオフにしてお使いください。

各部の名称

上面



マイクボタン（→ P43）
マイクのオン／オフを切り替えて、収音範囲を設定します。

マイクランプ（→ P15、16）
マイクのオン／オフなどを表示します。

スピーカ

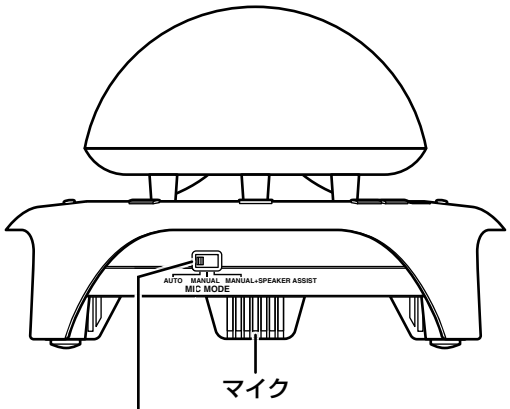
状態ランプ（→ P15 ～ 17）
マイクレベル、スピーカレベル、スピーカ音量などを表示します。

音量調整ボタン（VOLUME）（→ P38）
スピーカの音量を調整します。音量を大きくするときは（＋）を押します。音量を小さくするときは（－）を押します。12 段階に調整できます。

マイクミュートボタン（MIC MUTE）（→ P39）
すべてのマイクをオフにするときに押します。もう一度押すと元に戻ります。

マイクボタン マイクランプ

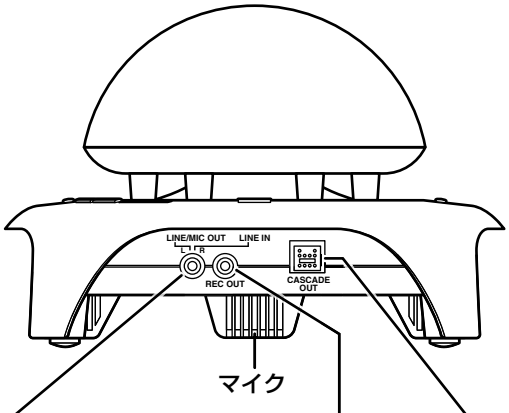
前面



マイク

マイクモードスイッチ（MIC MODE）（→ P42）
マイクモードを「AUTO」（自動追尾モード）、「MANUAL」（手動設定モード）、「MANUAL+SPEAKER ASSIST」（手動設定モード＋会話アシスト機能）のいずれかに切り替えます。
お買い求め時は「AUTO」（自動追尾モード）に設定されています。

右側面

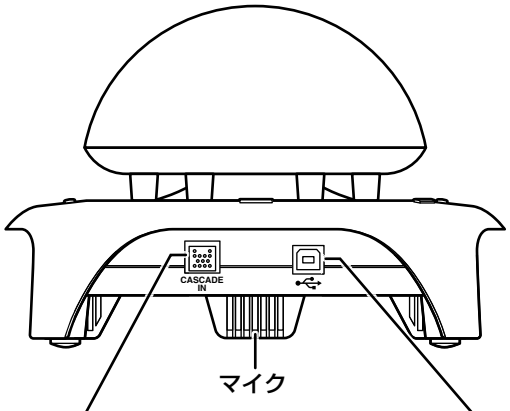


録音端子(REC OUT)(→P48)
通話録音をするときに使用する出力端子です。

CASCADE OUT 端子(→P44)
本商品を複数台接続するときに使用する出力端子です。

LINE/MIC OUT 端子／ LINE IN 端子（→P20、22）
LINE/MIC OUT 端子は、こちら側の音声を通信相手に出力する端子です。
携帯電話のマイク入力、テレビ電話装置の音声入力、またはパソコンのサウンドボードのライン入力やマイク入力と接続します。
LINE IN 端子は、通信相手から送られた音声を本商品に入力する端子です。
携帯電話の音声出力、テレビ電話装置の音声出力、またはパソコンのサウンドボードのライン出力と接続します。

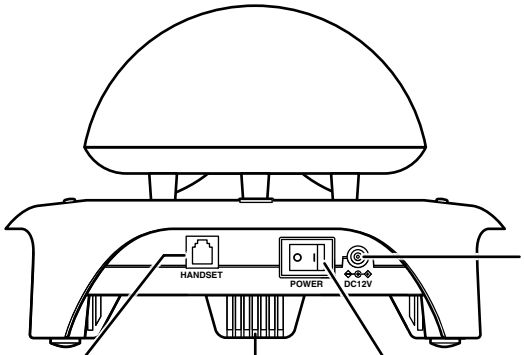
左側面



CASCADE IN 端子（→P44）
本商品を複数台接続するときに使用する入力端子です。

USB ポート（→P24）
パソコンの USB ポートと接続して、パソコンと本商品の間の音声を入出力します。

背面



電源アダプタ接続端子
電源アダプタを接続します。

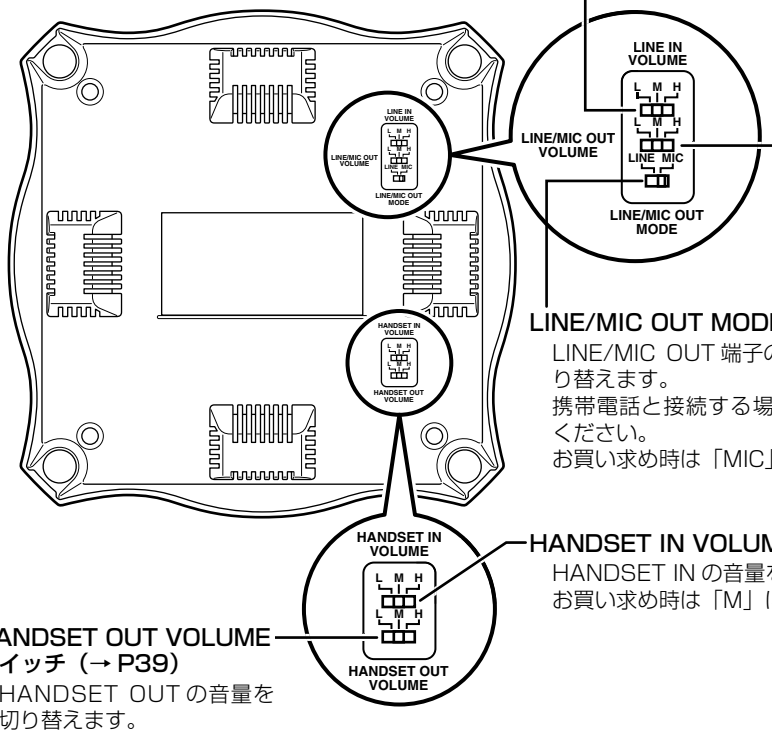
マイク

ハンドセットコード差込口（HANDSET）
（→ P18）
電話機のハンドセットコードを差し込みます。

電源スイッチ（POWER）
電源を「入（ | ）」「切（○）」します。

底面

LINE IN VOLUME スイッチ（→ P41）
LINE IN の音量を切り替えます。
お買い求め時は「M」に設定されています。



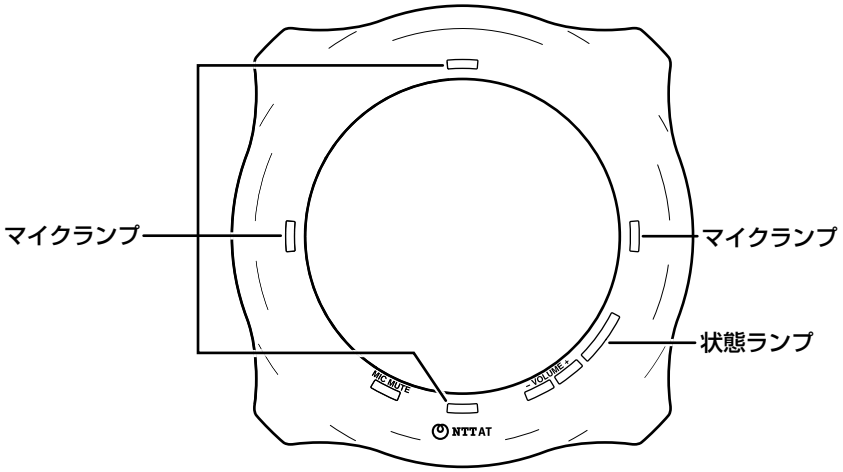
LINE/MIC OUT VOLUME スイッチ（→ P40）
LINE OUT と MIC OUT の音量を切り替えます。
お買い求め時は「M」に設定されています。

LINE/MIC OUT MODE スイッチ（→ P41）
LINE/MIC OUT 端子の LINE OUT と MIC OUT を切り替えます。
携帯電話と接続する場合は、必ず「MIC」に設定してください。
お買い求め時は「MIC」に設定されています。

HANDSET IN VOLUME スイッチ（→ P40）
HANDSET IN の音量を切り替えます。
お買い求め時は「M」に設定されています。

HANDSET OUT VOLUME スイッチ（→ P39）
HANDSET OUT の音量を切り替えます。
お買い求め時は「M」に設定されています。

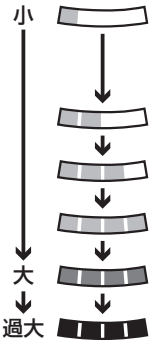
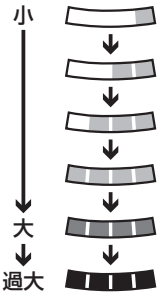
ランプ表示について



状態	ランプのつきかた（色）
電源を入れたとき	状態ランプ **点灯（紫、紫、紫、紫）** ↓ **消灯** ↓ **点灯（紫、紫、紫、紫）** ↓ **消灯** マイクランプ **点灯（橙）** ↓ **消灯** ↓ **点灯（橙）** ↓ **消灯**
待機時	状態ランプ **点灯（青）** 右端のランプが点灯（青）する場合もあります。 マイクランプ マイクモードスイッチ（MIC MODE）を「自動追尾モード（AUTO）」に設定している場合 **4つのマイクランプの内1つが点灯（緑）（3つは消灯）** マイクモードスイッチ（MIC MODE）を「手動設定モード（MANUAL）」、「手動設定モード+会話アシスト機能（MANUAL+SPEAKER ASSIST）」に設定している場合 **点灯（緑）（マイクオフのときは消灯）**

（次ページへ続く）

状態	ランプのつきかた（色）
スピーカ音量を調整しているとき	状態ランプ ランプ 1 つが 3 段階を表示し、12 段階に調整できます。 小 1 点灯（青） 2 点灯（紫） 3 点灯（赤） 4 点灯（赤、青） 5 点灯（赤、紫） 6 点灯（赤、赤） 7 点灯（赤、赤、青） 8 点灯（赤、赤、紫） 9 点灯（赤、赤、赤） 10 点灯（赤、赤、赤、青） 11 点灯（赤、赤、赤、紫） 大 12 点灯（赤、赤、赤、赤）
マイクオンのとき	マイクランプ 点灯（緑）
マイクオフのとき	マイクランプ 消灯
マイクオンでお話ししているとき	マイクランプ 点灯（橙）
マイクミュートのとき	マイクランプ 点灯（赤） 消灯 点灯、消灯の繰り返し

状態	ランプのつきかた（色）
こちら側がお話ししているとき （マイクレベル）	状態ランプ 左からマイクレベルを表示します。  **点灯（青）：レベルが小さすぎます。** 適正な音量となるよう、マイクに近づいて話すか、大きな声で話してください。 **点灯（青、青）：レベルは小さめです。** **点灯（青、青、青）：レベルは適正です。** **点灯（青、青、青、青）：レベルは適正です。** **点灯（紫、紫、紫、紫）：やや大きめです。** **点灯（赤、赤、赤、赤）：大きすぎます。** 適正な音量となるよう、マイクから離れるか、小さい声で話してください。
相手側がお話ししているとき （スピーカレベル）	状態ランプ 右からスピーカレベルを表示します。  **点灯（青）：レベルが小さすぎます。** **点灯（青、青）：レベルは小さめです。** **点灯（青、青、青）：レベルは適正です。** **点灯（青、青、青、青）：レベルは適正です。** **点灯（紫、紫、紫、紫）：やや大きめです。** **点灯（赤、赤、赤、赤）：大きすぎます。** ■ レベルが小さすぎる、または大きすぎるときは 適正な音量となるよう、本商品に接続している電話機、携帯電話、テレビ電話装置、パソコンなどの音声出力レベルを調整してください。 ●電話機を接続している場合は、適正な音量となるよう、電話機の受話音量を調整してください。電話機で調整ができない場合は、底面の HANDSET IN VOLUME スイッチを切り替えてください。（→ P40） ●携帯電話を接続している場合は、適正な音量となるよう、携帯電話の受話音量を調整してください。携帯電話で調整ができない場合は、底面の LINE IN VOLUME スイッチを切り替えてください。（→ P41） ●テレビ電話装置を接続している場合は、適正な音量となるよう、テレビ電話装置の音声出力レベルを調整してください。装置側で調整ができない場合は、底面の LINE IN VOLUME スイッチを切り替えてください。（→ P41） ●本商品の LINE/MIC OUT 端子／ LINE IN 端子とパソコンのサウンドボードの音声入出力端子を接続している場合は、適正な音量となるよう、パソコンの音声出力レベルを調整してください。パソコンで調整ができない場合は、底面の LINE IN VOLUME スイッチを切り替えてください。（→ P41） ●パソコンを USB 接続している場合は、適正な音量となるよう、パソコンの音声出力レベルを調整してください。

電話機と接続する



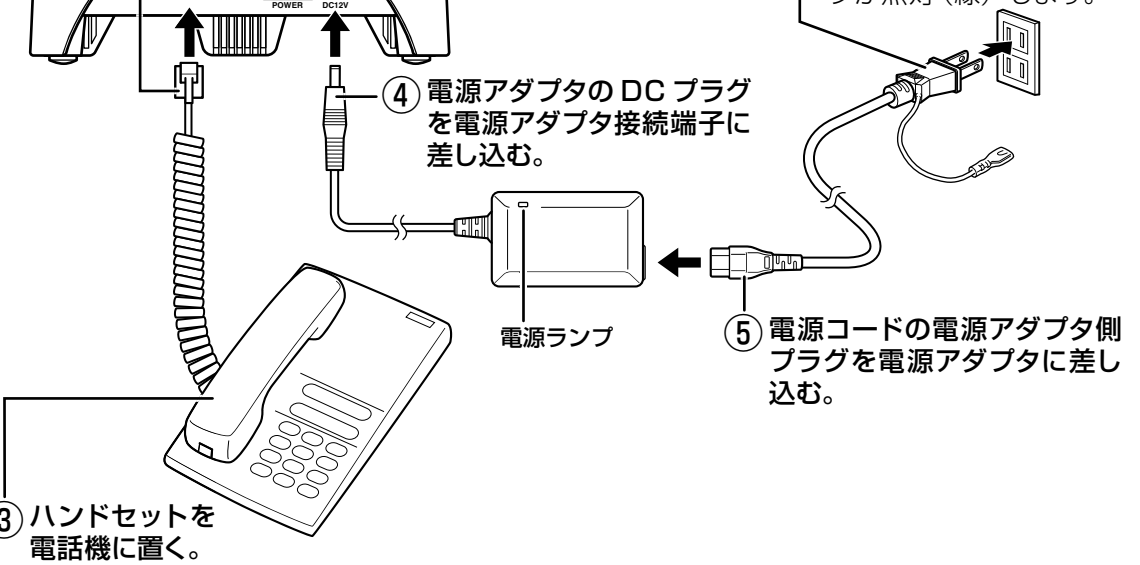
① 電話機のハンドセットから
ハンドセットコードを外す。

② ハンドセットコード差込口（HANDSET）に
電話機のハンドセットコードを差し込む。

【背面】

⑦ 電源スイッチ（POWER）の「｜」側
を押して電源を入れる。

⑥ 電源プラグを電源コンセントに差し込む。
電源アダプタの電源ランプが点灯（緑）します。



④ 電源アダプタの DC プラグ
を電源アダプタ接続端子に
差し込む。

電源ランプ

⑤ 電源コードの電源アダプタ側
プラグを電源アダプタに差し
込む。

③ ハンドセットを
電話機に置く。

電話機を接続した場合も、携帯電話、パソコンを同時に接続できます。
接続が終わったら、「使用方法」（→ P34）へ進んでください。

ワンポイント

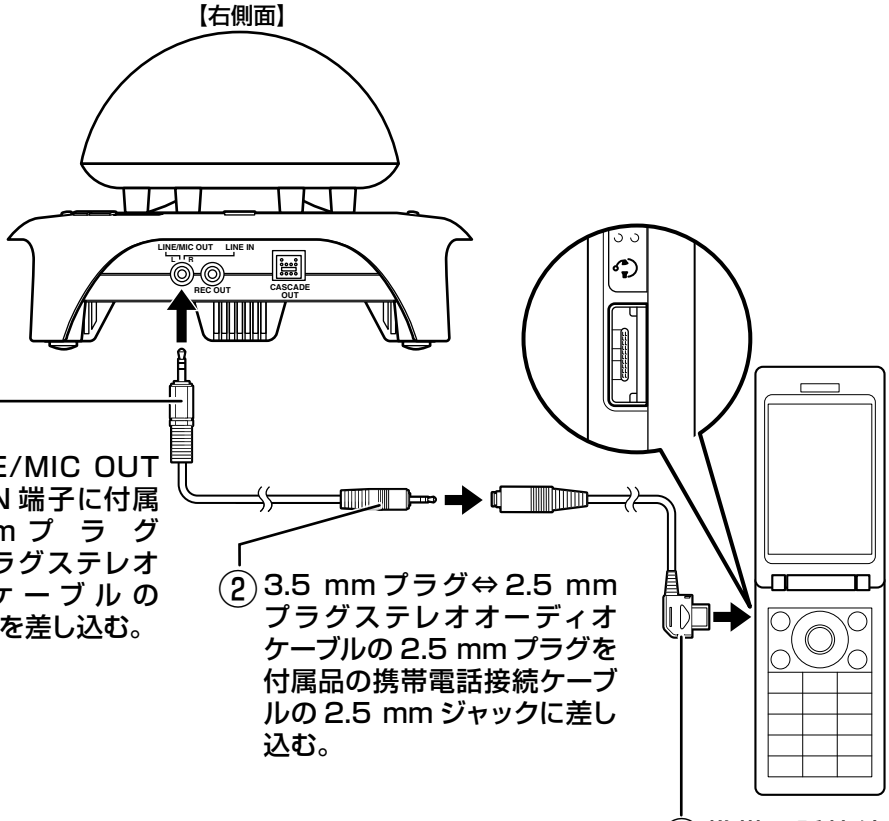
- **マイクの収音範囲を設定するには（→ P42）**
- **相手からの声が大きすぎる、または小さすぎるときは**
  適正な音量となるよう、電話機の受話音量を調整してください。電話機で調整ができない場合は、底面の HANDSET IN VOLUME スイッチを切り替えてください。（→ P40）
  相手からの声の大きさ（スピーカレベル）は状態ランプでも確認できます。
- **相手側から声が大きすぎる、または小さいと言われるときは**
  底面の HANDSET OUT VOLUME スイッチを切り替えてください。（→ P39）

お知らせ

- 接続する電話機は、NS-A1 ／ NS-A2 を推奨します。NS-A1 ／ NS-A2 以外の電話機を接続した場合の動作保証はしていません。
- 雷などにより電話機や本商品が破損することを防止するために、サンダーガード（発売元 NTT アドバンステクノロジ株式会社）を接続してご使用ください。

携帯電話と接続する

【右側面】

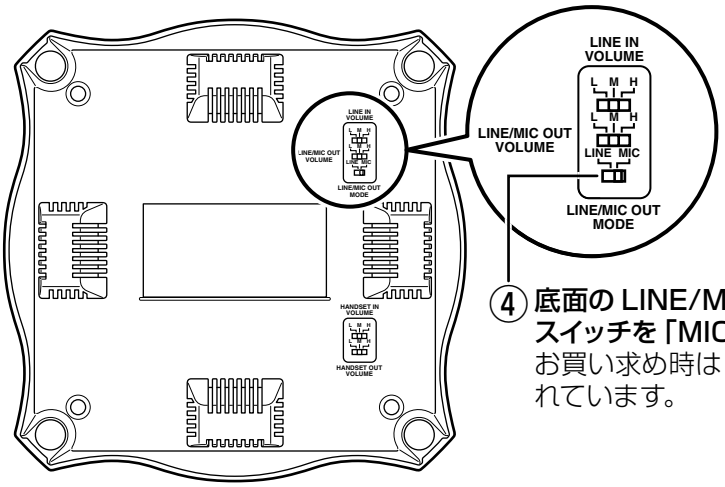


① 本商品のLINE/MIC OUT端子／LINE IN端子に付属品の3.5 mmプラグ⇔2.5 mmプラグステレオオーディオケーブルの3.5 mmプラグを差し込む。

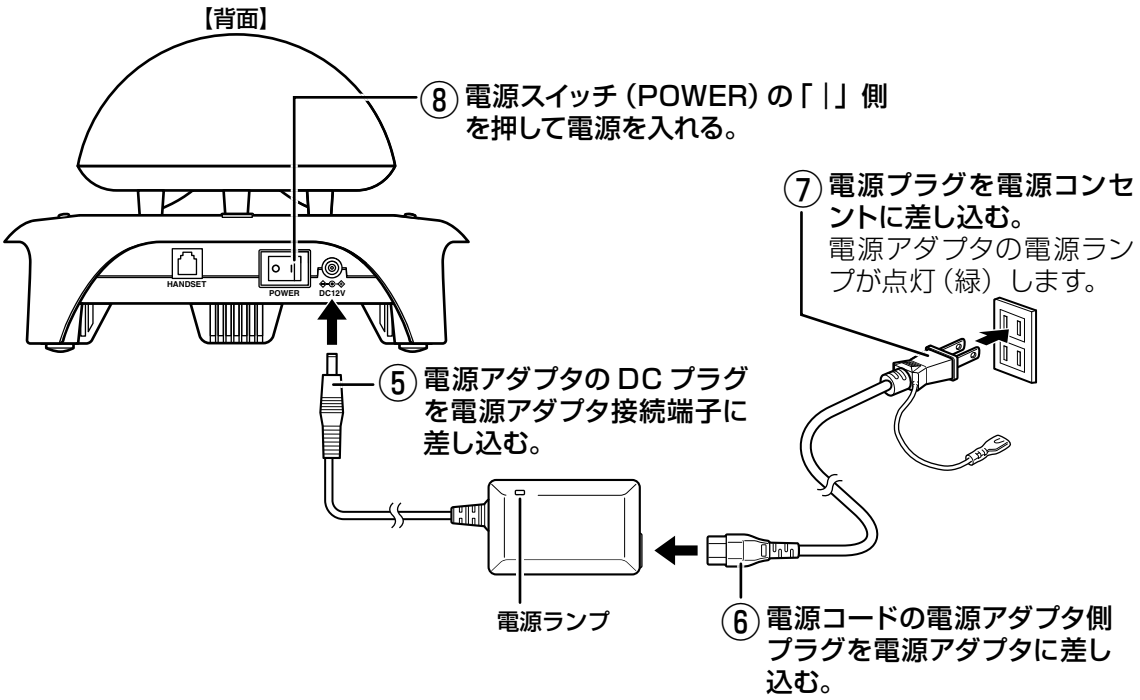
② 3.5 mmプラグ⇔2.5 mmプラグステレオオーディオケーブルの2.5 mmプラグを付属品の携帯電話接続ケーブルの2.5 mmジャックに差し込む。

③ 携帯電話接続ケーブルのプラグを携帯電話のコネクタに差し込む。

【底面】



④ **底面のLINE/MIC OUT MODEスイッチを「MIC」に切り替える。**
お買い求め時は「MIC」に設定されています。



携帯電話を接続した場合も、電話機、パソコンを同時に接続できます。
接続が終わったら、「使用方法」（→ P34）へ進んでください。

ワンポイント

- **マイクの収音範囲を設定するには（→ P42）**
- **相手からの声が大きすぎる、または小さすぎるときは**
  適正な音量となるよう、携帯電話の受話音量を調整してください。携帯電話で調整ができない場合は、底面の LINE IN VOLUME スイッチを切り替えてください。（→ P41）
  相手からの声の大きさ（スピーカレベル）は状態ランプでも確認できます。
- **相手側から声が大きすぎる、または小さいと言われるときは**
  底面の LINE/MIC OUT VOLUME スイッチを切り替えてください。（→ P40）

お願い

- 3.5 mm プラグ⇔ 2.5 mm プラグステレオオーディオケーブルのプラグは、LINE/MIC OUT 端子／ LINE IN 端子や携帯電話接続ケーブルの 2.5 mm ジャックに奥まで確実に差し込んでください。
- 携帯電話機は、本商品から 30 cm 以上離してください。携帯電話機と本商品が近いと、雑音が入ることがあります。

お知らせ

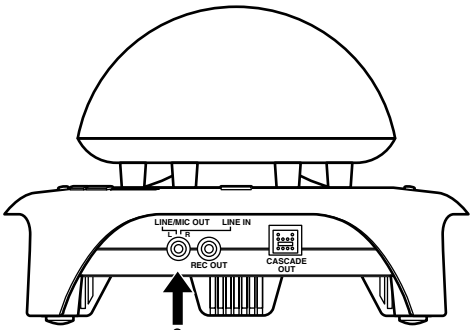
- 携帯電話接続ケーブルは、携帯電話のコネクタの向きに合わせて接続してください。
- 携帯電話の機種によっては、別途変換コネクタが必要になる場合があります。
- ご利用になる携帯電話によっては、エコーが発生することがあります。

テレビ電話と接続する（オーディオケーブルでの接続）

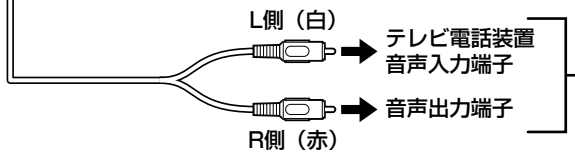
接続に必要なステレオオーディオケーブルは、お客様でご用意ください。
また、テレビ電話装置の端子が RCA ピンの場合は、3.5 mm プラグ⇔ RCA ピン変換ステレオオーディオケーブルをお客様でご用意ください。

＜例＞　テレビ電話装置の端子が RCA ピンの場合
テレビ電話装置の電源を切った状態で行ってください。

【右側面】

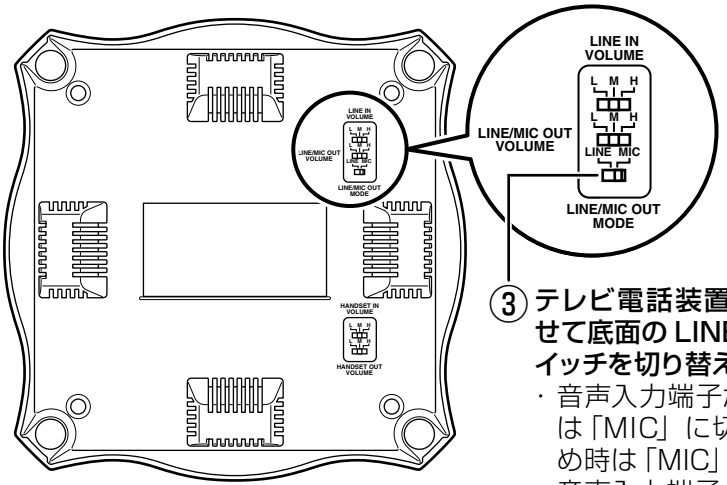


① 本商品の LINE/MIC OUT 端子／ LINE IN 端子とテレビ電話装置の音声入出力端子を 3.5 mm プラグ⇔テレビ電話装置の端子と適合するプラグのステレオオーディオケーブルで接続する。
ケーブルはお客様でご用意ください。

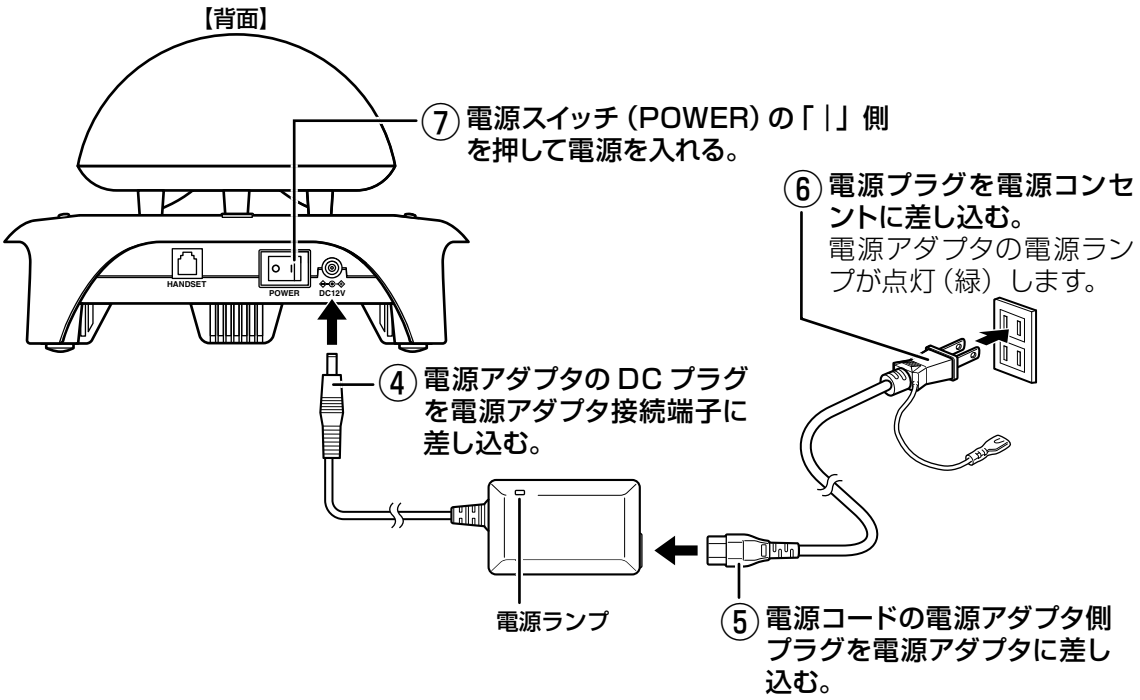


② RCA ピンの L 側（白）をテレビ電話装置の音声入力端子に接続し、RCA ピンの R 側（赤）をテレビ電話装置の音声出力端子に接続する。

【底面】



③ テレビ電話装置の音声入力端子に合わせて底面の LINE/MIC OUT MODE スイッチを切り替える。
・音声入力端子がマイク入力端子のときは「MIC」に切り替えます。お買い求め時は「MIC」に設定されています。
・音声入力端子がライン入力端子のときは「LINE」に切り替えます。

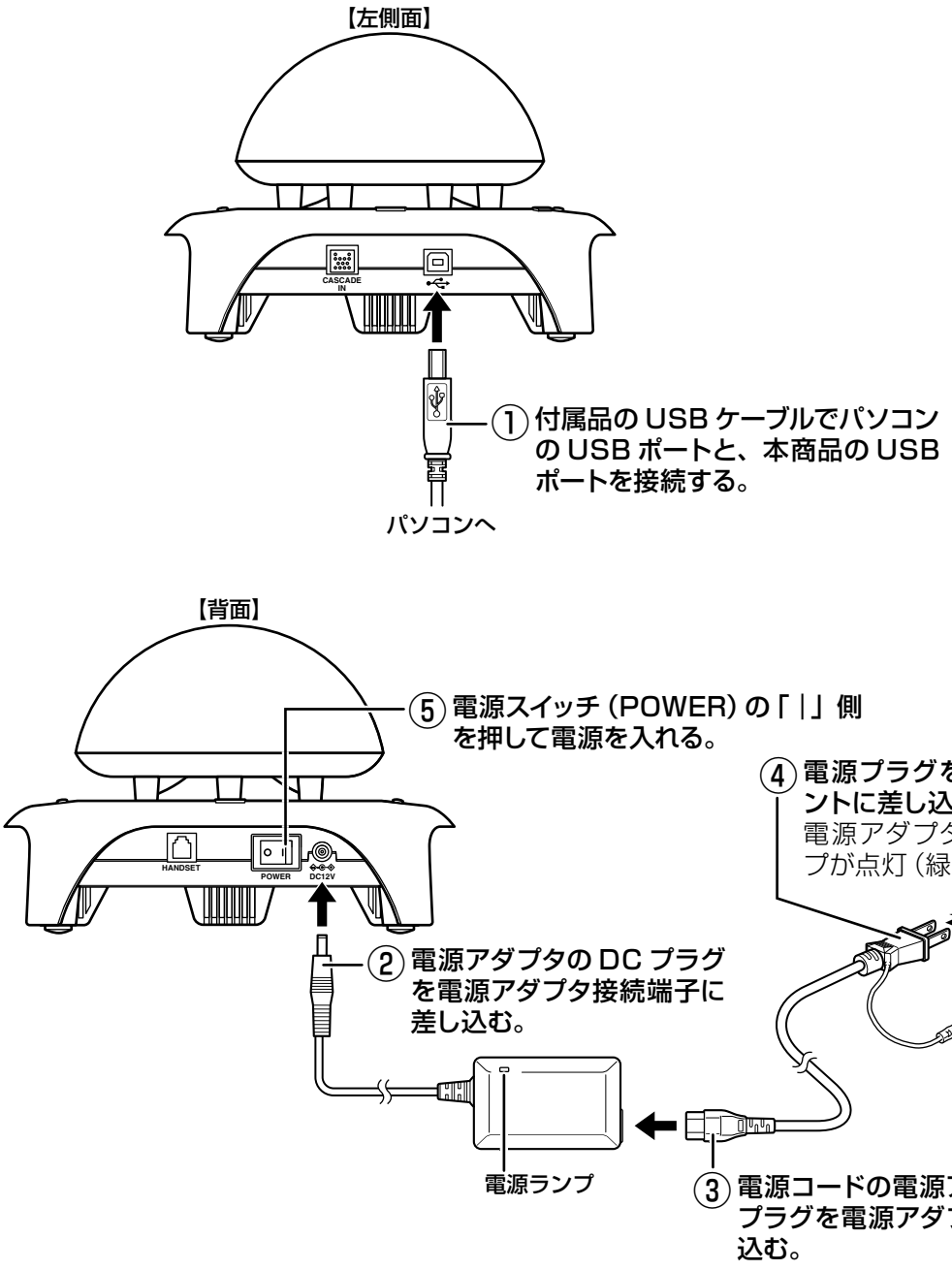


テレビ電話装置を接続した場合も、電話機、パソコンを同時に接続できます。
接続が終わったら、「使用方法」（→ P34）へ進んでください。

ワンポイント

- **マイクの収音範囲を設定するには（→ P42）**
- **相手からの声が大きすぎる、または小さすぎるときは**
  適正な音量となるよう、テレビ電話装置の音声出力レベルを調整してください。テレビ電話装置で調整ができない場合は、底面の LINE IN VOLUME スイッチを切り替えてください。（→ P41）
  相手からの声の大きさ（スピーカレベル）は状態ランプでも確認できます。
- **相手側から声が大きすぎる、または小さいと言われるときは**
  ・手順③で、LINE/MIC OUT MODE スイッチをテレビ電話装置の音声入力端子に合わせて切り替えているかご確認ください。
  ・底面の LINE/MIC OUT VOLUME スイッチを切り替えてください。（→ P40）

パソコンと接続する（USB接続）



パソコンを USB 接続した場合も、電話機、携帯電話を同時に接続できます。
接続が終わったら、「パソコンの設定を確認する（Windows Vista）」（→ P26）または「パソコンの設定を確認する（Windows XP）」（→ P30）へ進んでください。

ワンポイント

- **マイクの収音範囲を設定するには（→ P42）**
- **相手からの声が大きすぎる、または小さすぎるときは**
  適正な音量となるよう、パソコンの音声出力レベルを調整してください。
- **パソコンと USB 接続ができないとき**
  本商品の LINE/MIC OUT 端子／ LINE IN 端子とパソコンのサウンドボードの音声入出力端子を 3.5 mm プラグ⇔パソコンの端子と適合するプラグのステレオオーディオケーブルで接続することができます。ケーブルはお客様でご用意ください。詳しくは「テレビ電話と接続する」（→ P22）の手順を参照してください。
- **ご使用になれるパソコンの OS**
  Windows XP Home Edition（SP3）、Windows XP Professional（SP3）および Windows Vista Home Basic、Windows Vista Home Premium、Windows Vista Business、Windows Vista Ultimate の各日本語版の 32 ビット版です。

お知らせ

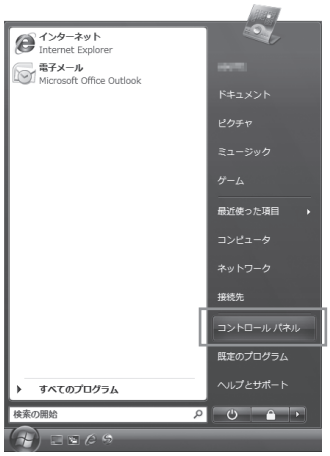
- 本商品の電源が入っていなくても、手順①で USB ケーブルを接続するとパソコンのオーディオデバイスとして認識されます。ただし、本商品でのハンズフリー通話は、本商品の電源を入れてから可能となります。

パソコンの設定を確認する（Windows Vista）

下記の手順に従って、パソコンの設定を確認します。
本書では Windows Vista の通常の画面イメージで説明しています。お使いになっているパソコンによっては表示が異なる場合があります。

1 コントロールパネルを表示する。

Windows Vista を起動し、［スタート］メニューから［コントロールパネル］をクリックします。



2 ［ハードウェアとサウンド］を表示する。

コントロールパネルの［ハードウェアとサウンド］をクリックします。

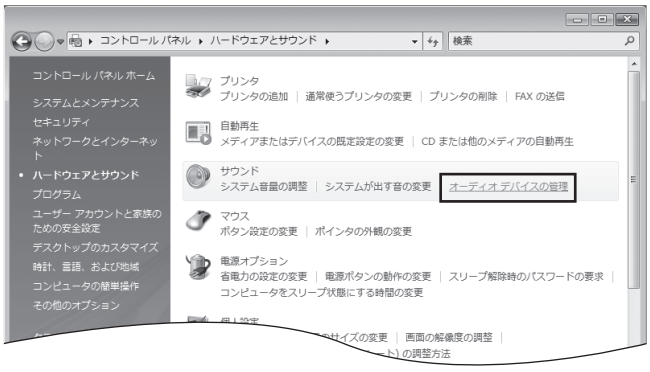


お知らせ

- Windows Vista では、コントロールパネルの表示モードにカテゴリ表示モードとクラシック表示モードがあります。この取扱説明書の画面は、カテゴリ表示モードを前提に記述しています。

3 ［サウンド］画面を表示する。

［オーディオデバイスの管理］をクリックします。



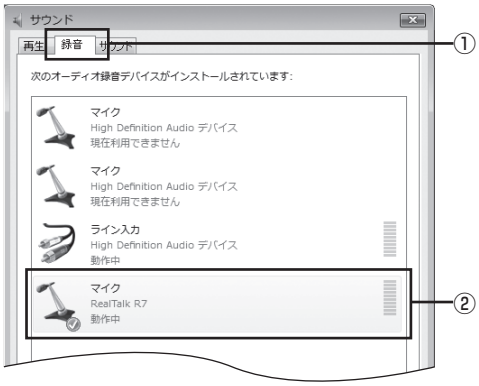
4 ［サウンド］の［再生］画面を確認する。

［スピーカー RealTalk R7 動作中］が選択されていることを確認します。
［スピーカー USB オーディオ デバイス 動作中］と表示される場合もあります。



5 ［サウンド］の［録音］画面を確認する。

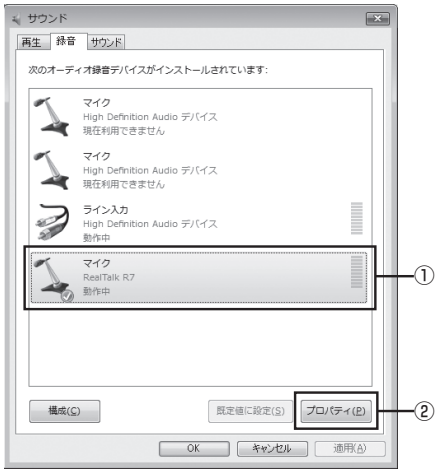
① ［録音］タブをクリックします。
② ［マイク RealTalk R7 動作中］が選択されていることを確認します。
［マイク USB オーディオ デバイス 動作中］と表示される場合もあります。



（次ページへ続く）

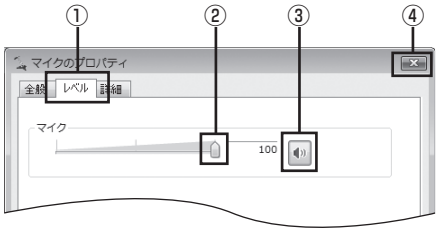
6 ［マイクのプロパティ］画面を表示する。

①［マイク RealTalk R7 動作中］をクリックします。
②［プロパティ］をクリックします。



7 マイク音量を調整する。

①［レベル］タブをクリックします。
②［マイク］の音量を最大に調整します。
③［マイク］アイコンが 🔊 になっていることを確認します。
　🔇 になっている場合は、 🔇 をクリックして 🔊 にしてください。
④右上の［×］をクリックして画面を閉じます。



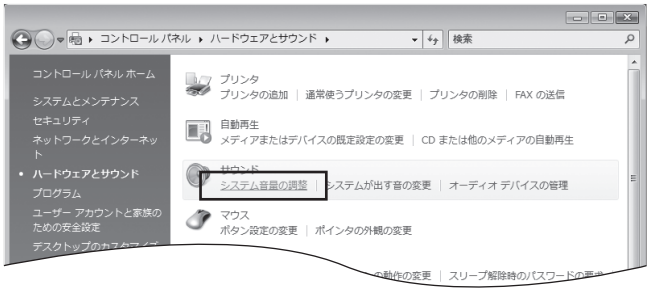
8 ［サウンド］画面を閉じる。

右上の［×］をクリックして画面を閉じます。



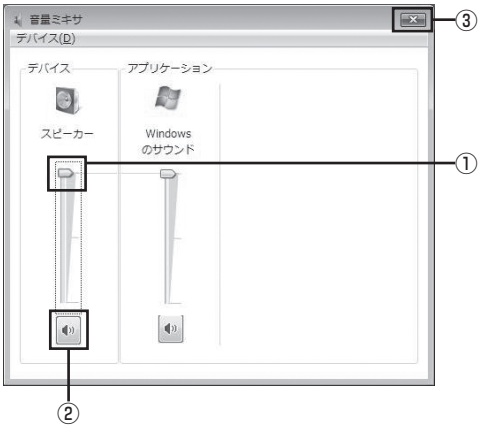
9 ［音量ミキサ］画面を表示する。

［システム音量の調整］をクリックします。



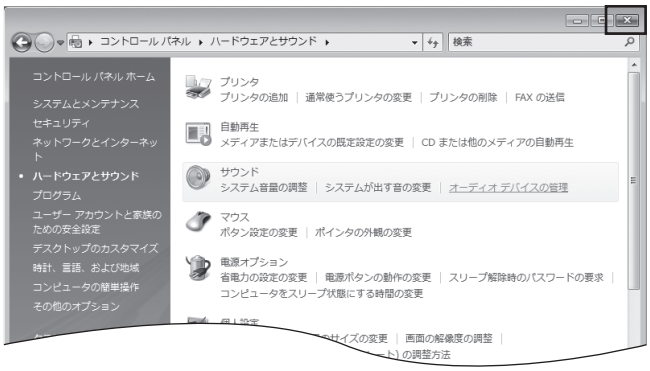
10 スピーカ音量を調整する。

① ［スピーカー］の音量を最大に調整します。
② ［スピーカー］アイコンが 🔊 になっていることを確認します。
　🔇 になっている場合は、 🔇 をクリックして 🔊 にしてください。
③ 右上の［X］をクリックして画面を閉じます。



11 ［ハードウェアとサウンド］画面を閉じる。

［ハードウェアとサウンド］画面右上の［×］をクリックして画面を閉じます。



設定の確認はこれで終了です。

「使用方法」（→ P34）へ進んでください。

パソコンの設定を確認する（Windows XP）

下記の手順に従って、パソコンの設定を確認します。
本書では Windows XP の通常の画面イメージで説明しています。お使いになっているパソコンによっては表示が異なる場合があります。

1 コントロールパネルを表示する。

Windows XP を起動し、［スタート］メニューから［コントロールパネル］をクリックします。



2 ［サウンド、音声、およびオーディオデバイス］を表示する。

コントロールパネルの［サウンド、音声、およびオーディオデバイス］をクリックします。

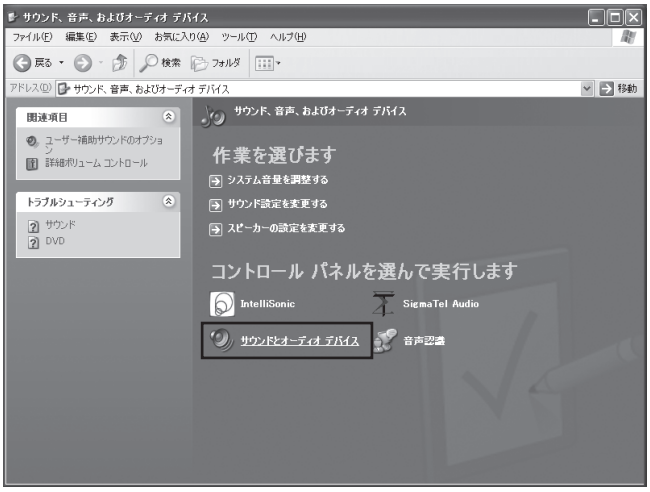


お知らせ

- Windows XP では、コントロールパネルの表示モードにカテゴリ表示モードとクラシック表示モードがあります。この取扱説明書での画面は、カテゴリ表示モードを前提に記載しています。

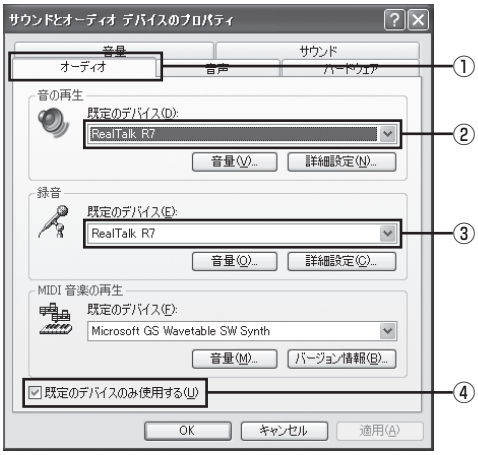
3 ［サウンドとオーディオデバイスのプロパティ］を表示する。

［サウンドとオーディオデバイス］をクリックします。



4 ［オーディオ］画面を表示する。

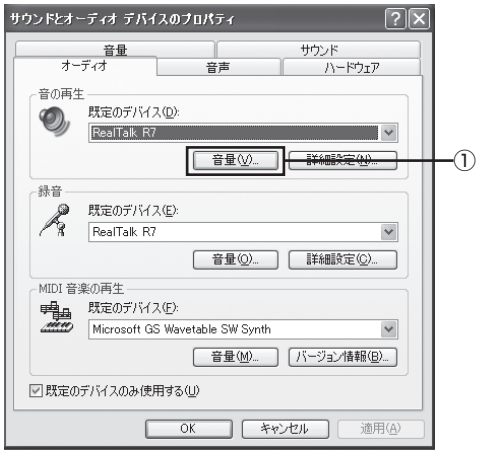
① ［オーディオ］タブをクリックします。
② ［音の再生］の［既定のデバイス］に［RealTalk R7］が選択されていることを確認します。
③ ［録音］の［既定のデバイス］に［RealTalk R7］が選択されていることを確認します。
④ ［既定のデバイスのみ使用する］にチェックがついていることを確認します。
チェックがついていない場合は、チェックを入れてください。



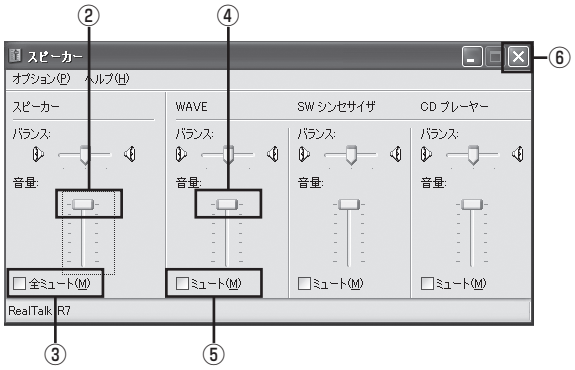
（次ページへ続く）

5 スピーカ音量を調整する。

①［音の再生］の［音量］をクリックします。

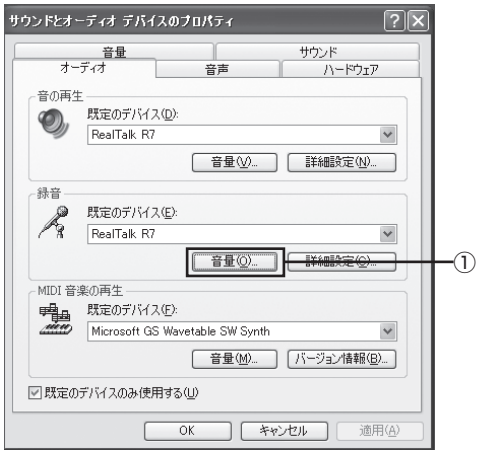


②［スピーカー］の［音量］を［最大］に調整します。
③［スピーカー］の［全ミュート］にチェックがついていないことを確認します。
チェックがついている場合は、チェックを外してください。
④［WAVE］の［音量］を［最大］に調整します。
⑤［WAVE］の［ミュート］にチェックがついていないことを確認します。
チェックがついている場合は、チェックを外してください。
⑥ 右上の［×］をクリックして画面を閉じます。

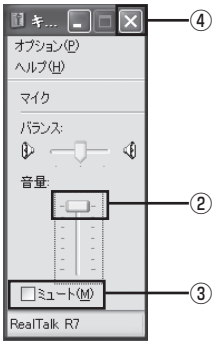


6 マイク音量を調整する。

①［録音］の［音量］をクリックします。



②［マイク］の［音量］を［最大］に調整します。
③［マイク］の［ミュート］にチェックがついていないことを確認します。
チェックがついている場合は、チェックを外してください。
④ 右上の［×］をクリックして画面を閉じます。

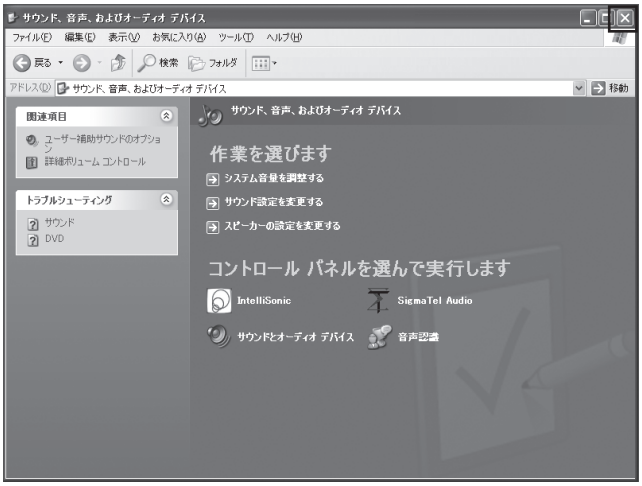


7 ［OK］をクリックする。



8 ［サウンド、音声、およびオーディオ デバイス］画面を閉じる。

画面右上の［×］をクリックして画面を閉じます。



設定の確認はこれで終了です。
「使用方法」（→ P34）へ進んでください。

ハンズフリーで通話する

会議を行う

1 **通信相手と接続する。**

パソコンの Web 会議アプリケーションや VoIP 電話ソフト、テレビ電話装置、電話機、携帯電話を操作して、通信相手と接続します。

2 **本商品に向かって会話する。**

マイクから 3 m 程度離れていても十分な音量で収音しますので、マイクを気にせずに通話できます。

3 **通話が終わったら、通信を切断する。**

4 **本商品の電源スイッチ（POWER）の「○」側を押して、電源を切る。**

STOP お願い

- パソコンを使用しての通話中は、パソコンをスタンバイ、スリープ、休止状態にしないでください。

お知らせ

- パソコンの Web 会議アプリケーションや VoIP 電話ソフトの操作については、使用するソフトウェアの取扱説明書を参照してください。
- テレビ電話装置の設定および操作については、テレビ電話装置の取扱説明書を参照してください。
- Windows Vista をご利用の場合、パソコンのスピーカ音量の設定で、［スピーカー］がミュートに設定されていると、音声が聞こえません。ミュートを解除してください。（→ P29）
- Windows XP をご利用の場合、パソコンのスピーカ音量の設定で、［スピーカー］および［WAVE］がミュートに設定されていると、音声が聞こえません。ミュートを解除してください。（→ P32）
- パソコンのマイク音量の設定で、［マイク］がミュートに設定されていると、こちらの声が相手に聞こえません。ミュートを解除してください。（→ P28、33）
- ご利用になる携帯電話によっては、エコーが発生することがあります。

3地点で会議を行う

本商品に電話機と携帯電話を接続して、3 地点電話会議を実施できます。

1 **通信相手と接続する。**

① 電話機を操作して、通信相手と接続します。
② 携帯電話を操作して、通信相手と接続します。

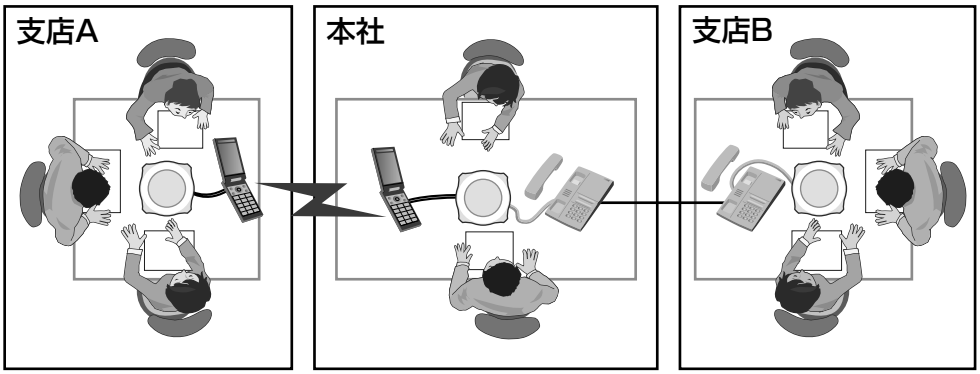
2 **本商品に向かって会話する。**

マイクから 3 m 程度離れていても十分な音量で収音しますので、マイクを気にせずに通話できます。

3 **通話が終わったら、通信を切断する。**

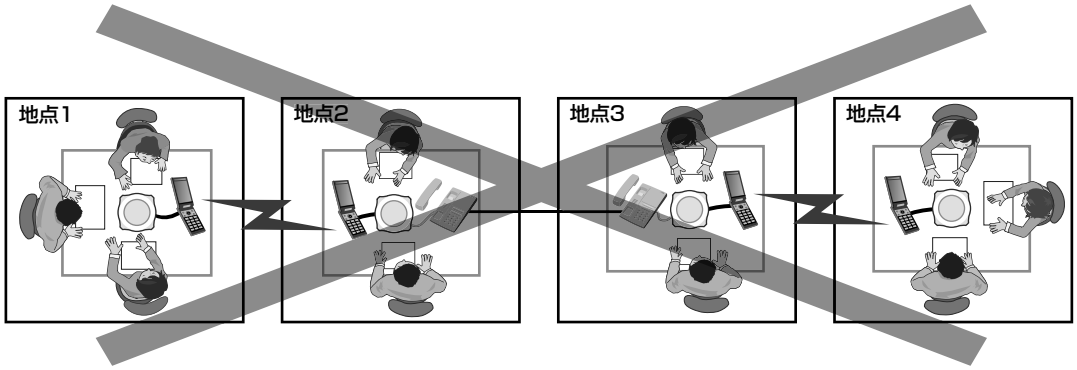
電話機と携帯電話の両方の通信を切断します。

4 **本商品の電源スイッチ（POWER）の「○」側を押して、電源を切る。**



STOP お願い

● 4 地点以上を数珠つなぎに接続すると、通話品質が劣化しますのでおやめください。



電話会議とWeb会議を混在した会議を行う

本商品に電話機や携帯電話、パソコンを接続して、電話会議と Web 会議を混在させた会議を実施できます。

1 **通信相手と接続する。**

① パソコンの Web 会議アプリケーションや VoIP 電話ソフトを操作して、通信相手と接続します。
② 電話機を操作して、通信相手と接続します。
③ 携帯電話を操作して、通信相手と接続します。

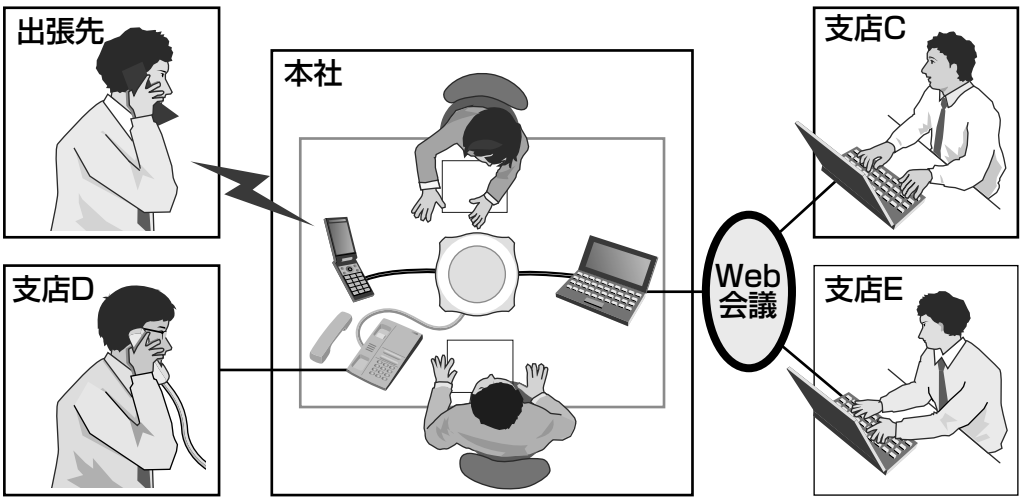
2 **本商品に向かって会話する。**

マイクから 3 m 程度離れていても十分な音量で収音しますので、マイクを気にせずに通話できます。

3 **通話が終わったら、通信を切断する。**

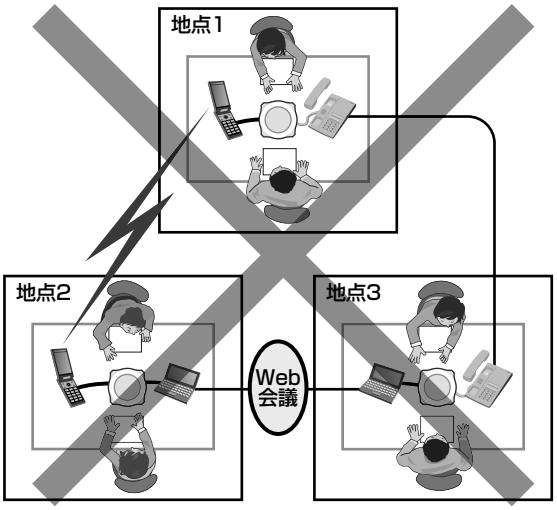
パソコンの Web 会議、電話機、携帯電話の通信のそれぞれを切断します。

4 **本商品の電源スイッチ（POWER）の「○」側を押して、電源を切る。**



STOP お願い

● 本商品をリング状に多地点接続すると、ハウリング（ピーと大きな音が鳴る）を生じますのでおやめください。



より快適なハンズフリー通話のために

●カーテンなどの吸音対策

ハンズフリー通話を行う部屋の響きが大きい場合は、壁面にカーテンを配するなどの吸音対策をすると、明瞭度も向上し、快適な通話が行えます。

●音量調整の注意点（ヘッドセットでの参加者がいる場合）

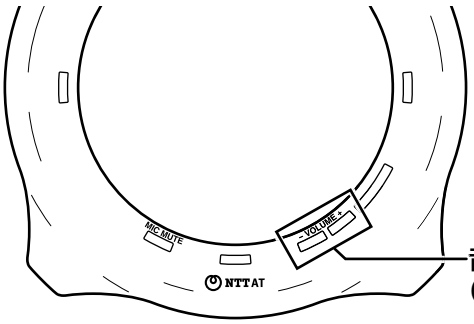
ヘッドセットを使用すると、お話しする人の口元とマイクの距離が近いために過大入力になりがちです。
ヘッドセットを使用する参加者（ヘッドセット拠点）とマイク、スピーカを使用する参加者（拡声拠点）が混在する場合は、最初に拡声拠点同士で適正な音量に調整してから、ヘッドセット拠点の音量を拡声拠点に合わせるように調整してください。
拡声拠点が 1 拠点の場合は、拡声拠点とヘッドセット拠点で通話し、拡声拠点優先で音量調整をしてから、ヘッドセット拠点の音量を拡声拠点に合わせるように調整してください。

音量を調整する

スピーカ音量を調整する

音量調整ボタン（VOLUME）を押して、スピーカ音量を調整することができます。音量が変わると、状態ランプに設定状態が約 2 秒間表示されます。

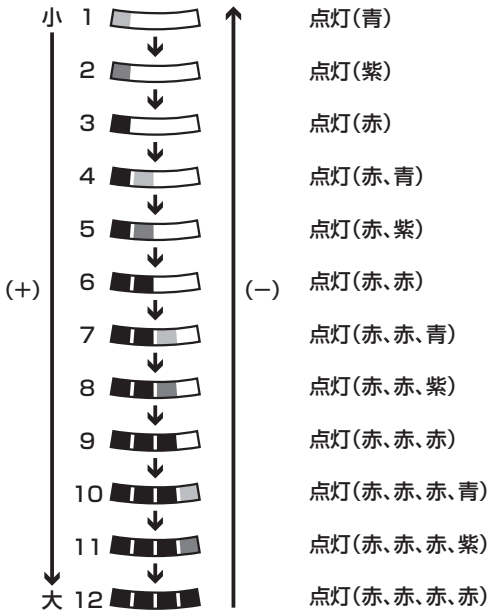
【上面】



音量調整ボタン（VOLUME）の（＋）または（－）を押す。

スピーカ音量を大きくするときは（＋）を押します。スピーカ音量を小さくするときは（－）を押します。状態ランプの表示で現在の音量を確認してください。

1 ～ 12 の 12 段階に調整できます。お買い求め時は「6」に設定されています。
調整中は状態ランプが点灯します。状態ランプの表示で現在の音量を確認してください。



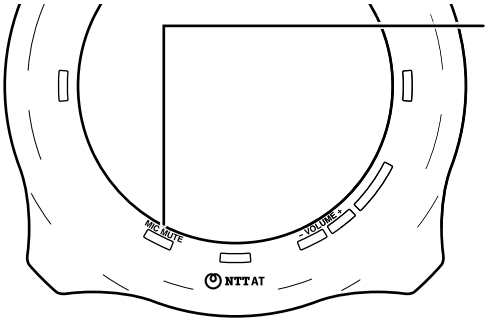
お知らせ

- 本商品の電源を切ってもスピーカ音量の調整値は保持されます。
- 本商品に接続した電話機や携帯電話の受話音量は、適正なスピーカ音量となるように調整してご利用ください。

マイクをミュートにする

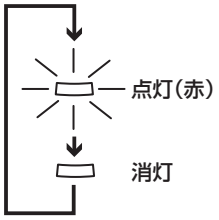
すべてのマイクをオフにして、こちらの声が相手側に聞こえないようにすることができます。

【上面】



① マイクミュートボタン（MIC MUTE）を押す。
こちら側の声が相手側に聞こえなくなります。

マイクランプ



点灯、消灯の繰り返し

② 元に戻すには、もう一度マイクミュートボタン（MIC MUTE）を押す。

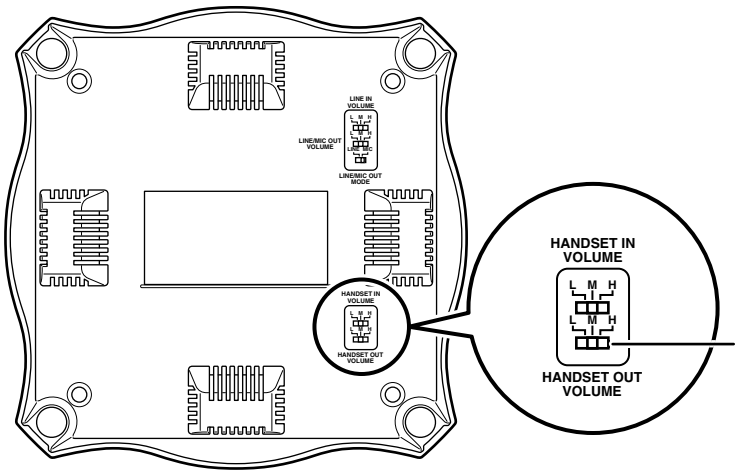
お知らせ

- マイクミュート中は、マイクボタンによるマイクのオン／オフはできません。
- 本商品の電源を入れ直したときは、マイクミュートは解除されます。
- 本商品を複数台接続している場合は（→ P44）、親機または子機のマイクミュートボタン（MIC MUTE）を押すと、親機とすべての子機がマイクミュートします。元に戻すには、もう一度親機または子機のマイクミュートボタン（MIC MUTE）を押します。
- マイクミュートボタン（MIC MUTE）を押したあと、約 0.5 秒間はマイクミュートボタン（MIC MUTE）を受け付けません。

マイクレベルを調整する（電話機を接続している場合）

本商品の底面にある HANDSET OUT VOLUME スイッチで、マイクレベルを調整することができます。
マイクレベルは「L」（低）、「M」（標準）、「H」（高）の 3 段階に切り替えられます。お買い求め時は「M」に設定されています。
こちら側からの声の大きさ（マイクレベル）は状態ランプで確認できます。

【底面】



底面の HANDSET OUT VOLUME スイッチを切り替える。

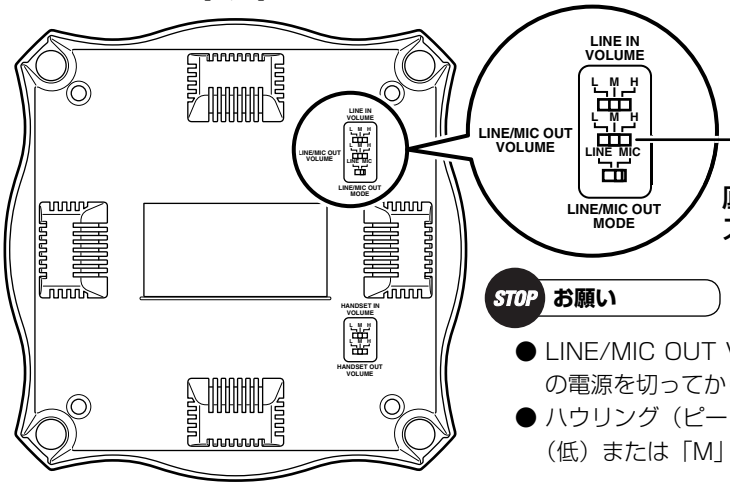
STOP お願い

- HANDSET OUT VOLUME スイッチの切り替えは、本商品の電源を切ってから行ってください。
- ハウリング（ピーと大きな音が鳴る）が生じる場合は、「L」（低）または「M」（標準）に切り替えてください。

マイクレベルを調整する（携帯電話やテレビ電話装置などを接続している場合）

本商品の底面にある LINE/MIC OUT VOLUME スイッチで、マイクレベルを調整することができます。
マイクレベルは「L」（低）、「M」（標準）、「H」（高）の３段階に切り替えられます。お買い求め時は「M」に設定されています。
こちら側からの声の大きさ（マイクレベル）は状態ランプで確認できます。

【底面】



底面の LINE/MIC OUT VOLUME スイッチを切り替える。

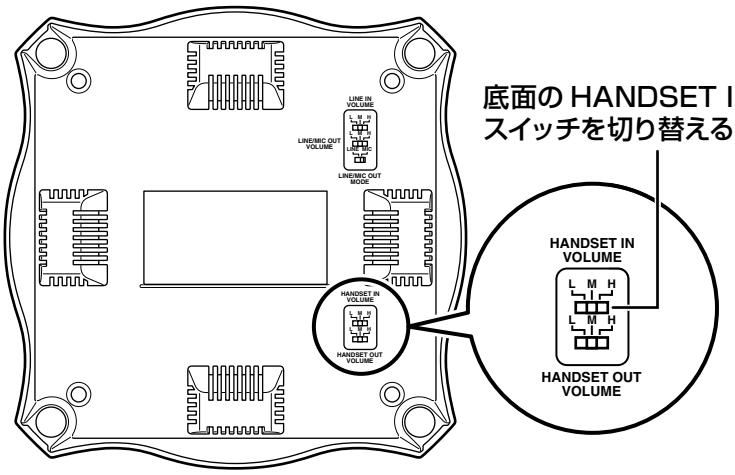
STOP お願い

- LINE/MIC OUT VOLUME スイッチの切り替えは、本商品の電源を切ってから行ってください。
- ハウリング（ピーと大きな音が鳴る）が生じる場合は、「L」（低）または「M」（標準）に切り替えてください。

スピーカレベルを調整する（電話機を接続している場合）

本商品の底面にある HANDSET IN VOLUME スイッチで、スピーカレベルを調整することができます。
スピーカレベルは「L」（低）、「M」（標準）、「H」（高）の３段階に切り替えられます。お買い求め時は「M」に設定されています。
スピーカレベルを調整する際は、スピーカ音量を「6」に調整したあとに、相手がお話ししているときのスピーカレベルが適正になるように、HANDSET IN VOLUME スイッチを調整してください。スピーカレベルを調整したあとで、好みの音量にスピーカ音量を調整します。
相手からの声の大きさ（スピーカレベル）は状態ランプでも確認できます。

【底面】



底面の HANDSET IN VOLUME スイッチを切り替える。

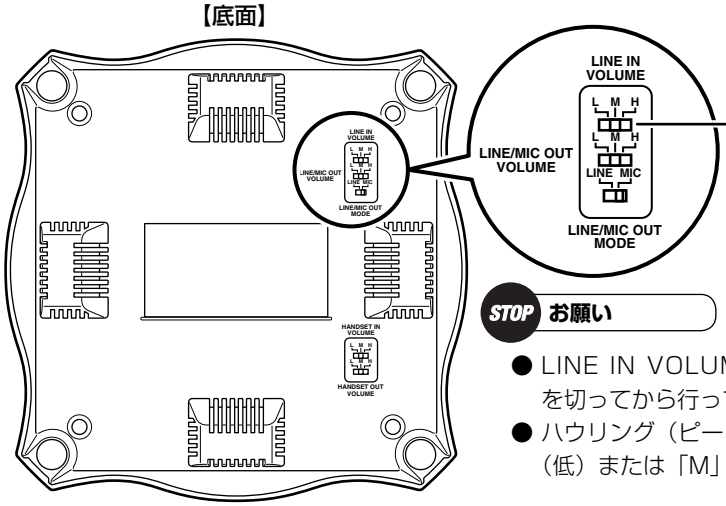
STOP お願い

- HANDSET IN VOLUME スイッチの切り替えは、本商品の電源を切ってから行ってください。
- ハウリング（ピーと大きな音が鳴る）が生じる場合は、「L」（低）または「M」（標準）に切り替えてください。

スピーカレベルを調整する（携帯電話やテレビ電話装置などを接続している場合）

本商品の底面にある LINE IN VOLUME スイッチで、スピーカレベルを調整することができます。
スピーカレベルは「L」（低）、「M」（標準）、「H」（高）の 3 段階に切り替えられます。お買い求め時は「M」に設定されています。
スピーカレベルを調整する際は、スピーカ音量を「6」に調整したあとに、相手がお話ししているときのスピーカレベルが適正になるように、LINE IN VOLUME スイッチを調整してください。スピーカレベルを調整したあとで、好みの音量にスピーカ音量を調整します。
相手からの声の大きさ（スピーカレベル）は状態ランプでも確認できます。

【底面】



底面の LINE IN VOLUME スイッチを切り替える。

STOP お願い

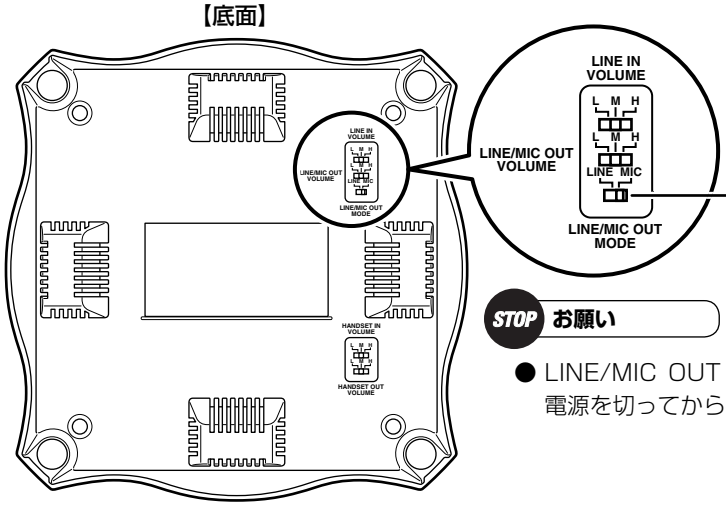
- LINE IN VOLUME スイッチの切り替えは、本商品の電源を切ってから行ってください。
- ハウリング（ピーと大きな音が鳴る）が生じる場合は、「L」（低）または「M」（標準）に切り替えてください。

ラインアウト／マイクアウトのレベルを切り替える（携帯電話やテレビ電話装置などを接続している場合）

本商品の底面にある LINE/MIC OUT MODE スイッチで、「LINE」、「MIC」を切り替えることができます。
お買い求め時は「MIC」に設定されています。

- 携帯電話と接続している場合は、「MIC」に切り替えてください。
- テレビ電話装置と接続している場合は、下記のように切り替えてください。
  - ・テレビ電話装置の音声入力端子がマイク入力端子のときは、「MIC」に切り替える。
  - ・テレビ電話装置の音声入力端子がライン入力端子のときは、「LINE」に切り替える。
- 本商品の LINE/MIC OUT 端子／ LINE IN 端子とパソコンのサウンドボードの音声入出力端子を接続している場合は、下記のように切り替えてください。
  - ・パソコンの音声入力端子がマイク入力端子のときは、「MIC」に切り替える。
  - ・パソコンの音声入力端子がライン入力端子のときは、「LINE」に切り替える。

【底面】



底面の LINE/MIC OUT MODE スイッチを切り替える。

STOP お願い

- LINE/MIC OUT MODE スイッチの切り替えは、本商品の電源を切ってから行ってください。

マイクの収音範囲を設定する

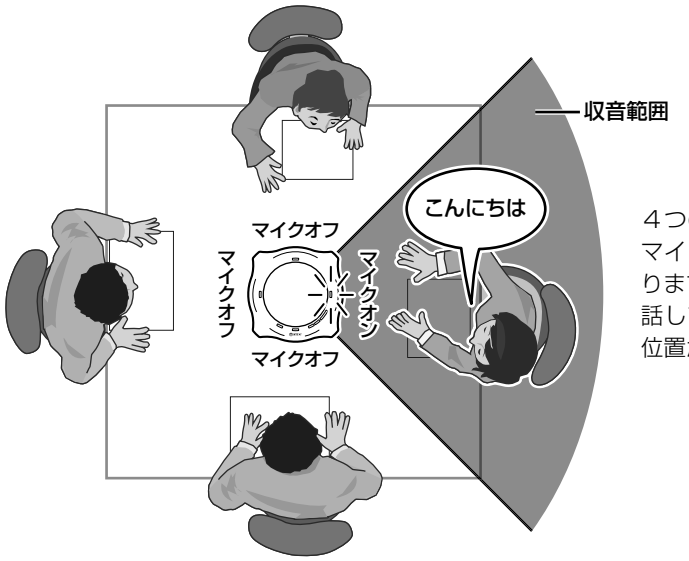
マイクモードスイッチ（MIC MODE）で、マイクモードを「自動追尾モード」、「手動設定モード」、「手動設定モード＋会話アシスト機能」のいずれかに切り替えることができます。
また、マイクモードスイッチ（MIC MODE）を「手動設定モード」または「手動設定モード＋会話アシスト機能」に切り替えたときは、マイクボタンによりマイクをオン／オフして収音範囲を設定することができます。

マイクモードとマイクの収音範囲について

マイクモードの切り替えは、通話中でも可能です。
お買い求め時は「自動追尾モード（AUTO）」に設定されています。

●自動追尾モード（AUTO）

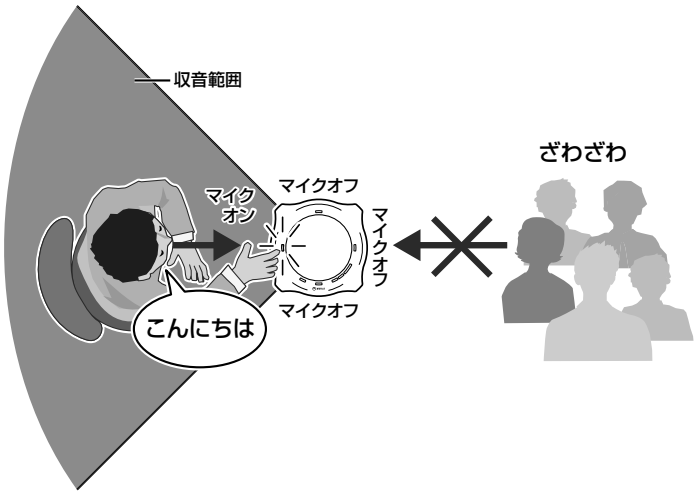
マイクボタンによるマイクのオン／オフにかかわらず、自動でお話しする人の方向に合わせて収音範囲が設定されます。自動追尾モード（AUTO）では、マイクボタンによるマイクのオン／オフはできません。



４つのマイクの内、話している人がいる方向のマイクのみオンになり、他のマイクはオフになります。オンになるマイクは１つです。
話している人の位置に応じてマイクオンになる位置が変わります。

●手動設定モード（MANUAL）／ 手動設定モード＋会話アシスト機能（MANUAL+SPEAKER ASSIST）

マイクボタンによりマイクをオン／オフして収音範囲を設定します。マイクミュート中はマイクのオン／オフはできません。
手動設定モード＋会話アシスト機能（MANUAL+SPEAKER ASSIST）に設定すると、会話アシスト機能（→ P46）が利用できます。

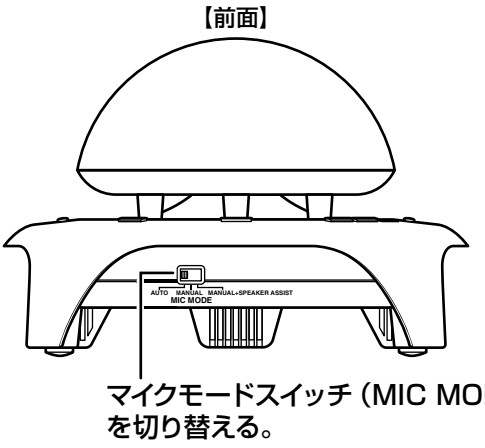


お知らせ

- 収音範囲は一例を示します。収音範囲外でも多少収音します。

マイクモードを切り替える

マイクモードスイッチ（MIC MODE）でマイクモードを切り替えます。

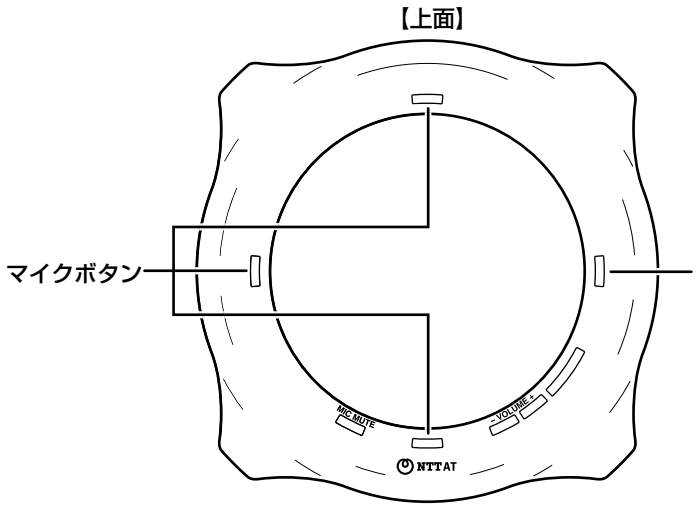


STOP お願い

- 本商品を複数台接続している場合は、マイクモードスイッチ（MIC MODE）の切り替えは親機で行ってください。
- 「手動設定モード＋会話アシスト機能（MANUAL+SPEAKER ASSIST）」は、複数台を接続して使用する場合（→ P44）にのみ使用してください。

マイクボタンでマイクの収音範囲を設定する

マイクモードスイッチ（MIC MODE）を「手動設定モード」、「手動設定モード＋会話アシスト機能」に切り替えたときは、マイクボタンによりマイクをオン／オフして収音範囲を設定します。



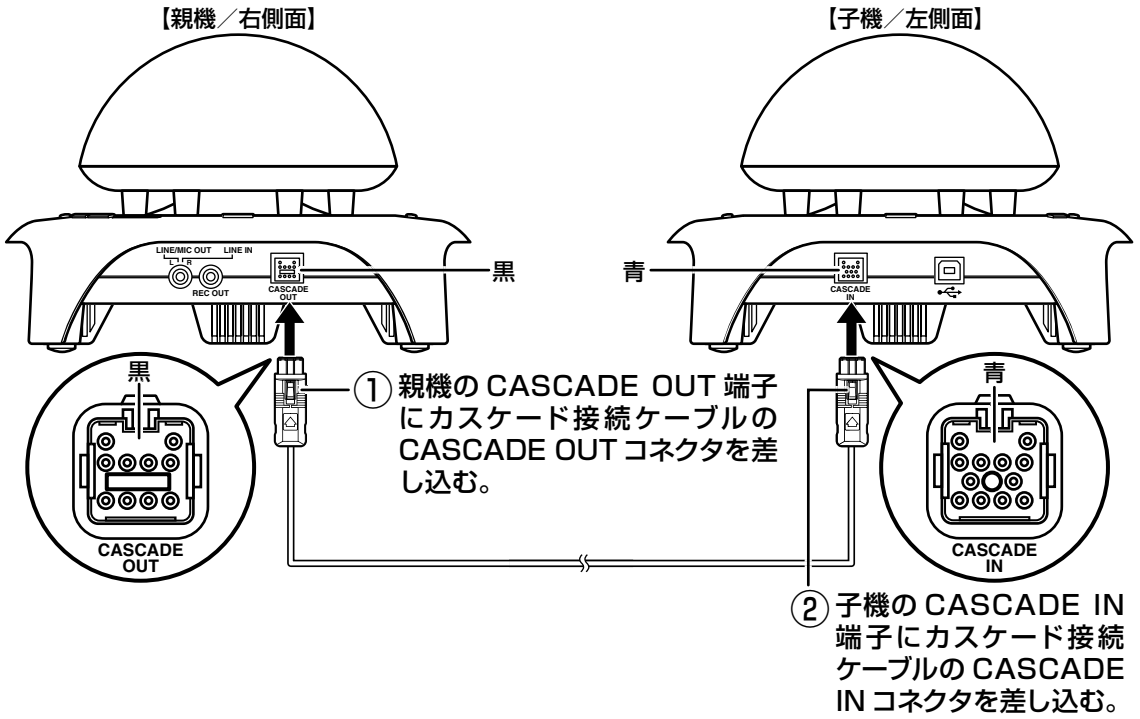
お知らせ

- お買い求め時は、4 つのマイクはオンです。
- 4 つのマイクの内、オフにできるのは 3 つまでです。
- マイクミュート中はマイクのオン／オフはできません。
- 本商品の電源を切ってもマイクのオン／オフは保持されます。

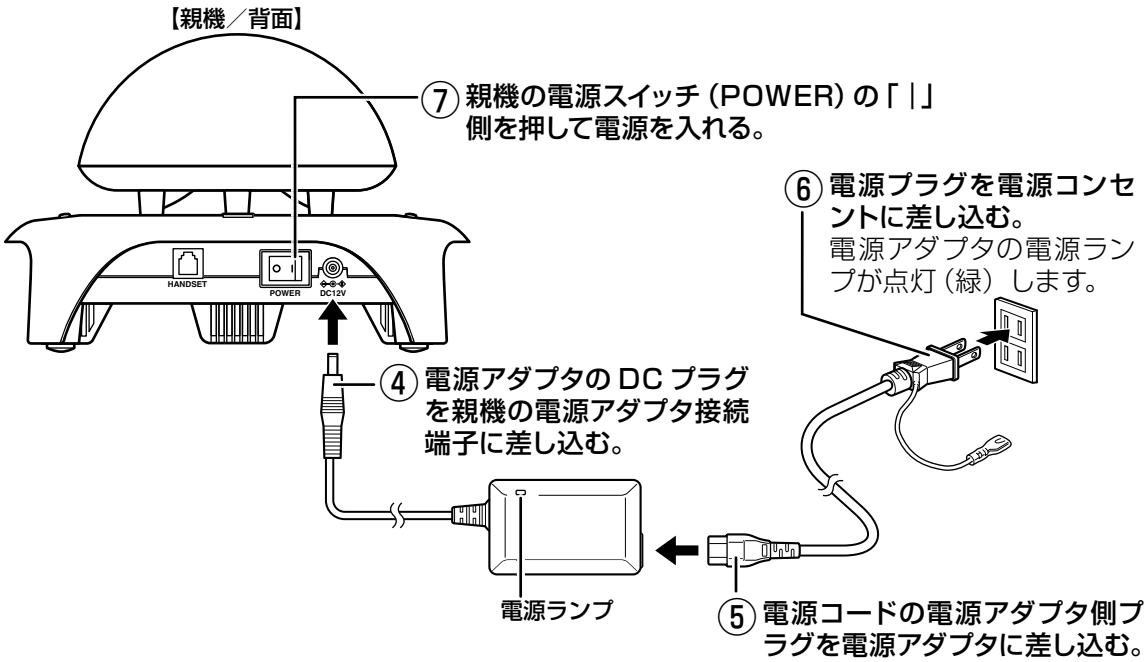
複数台を接続して使う

複数台の本商品をオプションのカスケード接続ケーブルで接続することができます。最大 6 台まで接続できます。

複数台をカスケード接続する

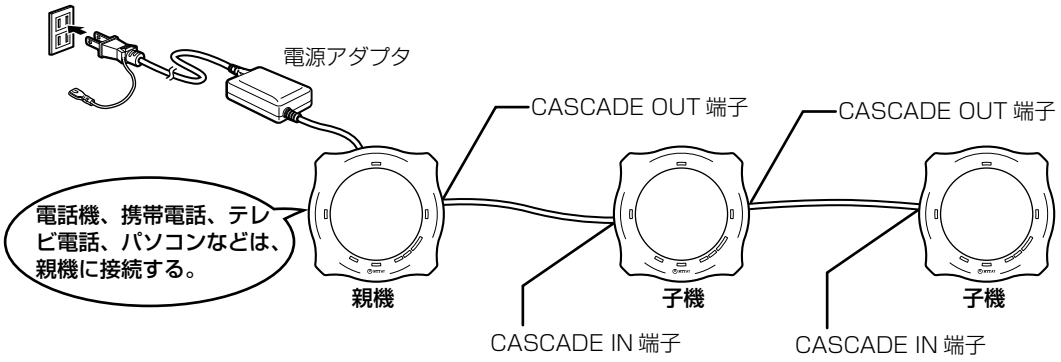


③ さらに子機を増やす場合は、子機の CASCADE OUT 端子と、新たな子機の CASCADE IN 端子をカスケード接続ケーブルで接続する。

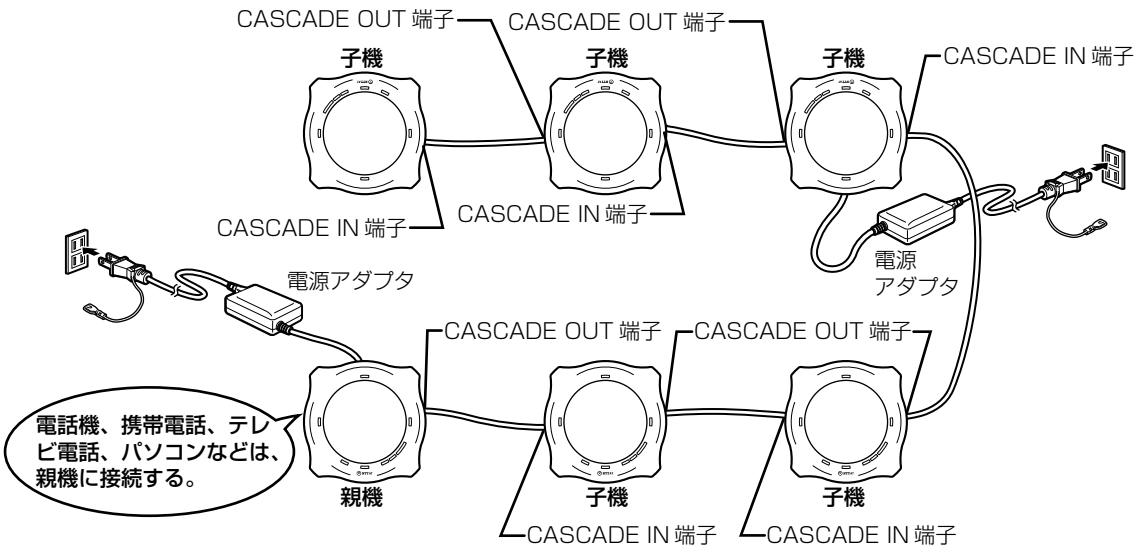


⑧ 子機の電源スイッチ（POWER）の「｜」側を押して電源を入れる。

● 本商品を 3 台接続した場合

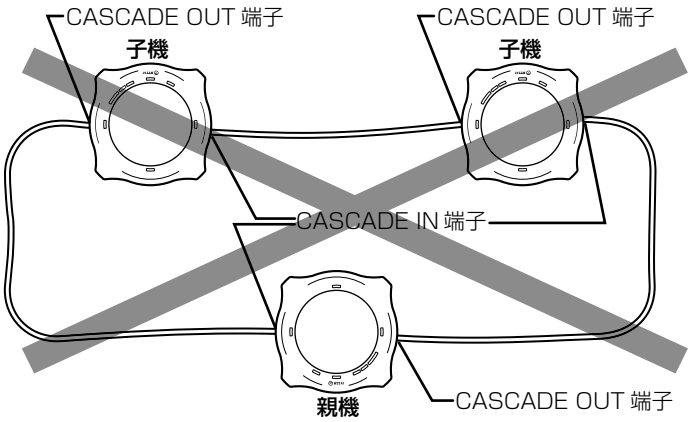


● 本商品を 6 台接続した場合



STOP お願い

- カスケード接続ケーブルを無理に引っ張ったり、コネクタを無理に差し込んだりしないでください。
- 電源を入れるときは、親機の電源を入れてから子機の電源を入れてください。
- 本商品をリング状にカスケード接続すると、ハウリング（ピーと大きな音が鳴る）を生じますのでおやめください。



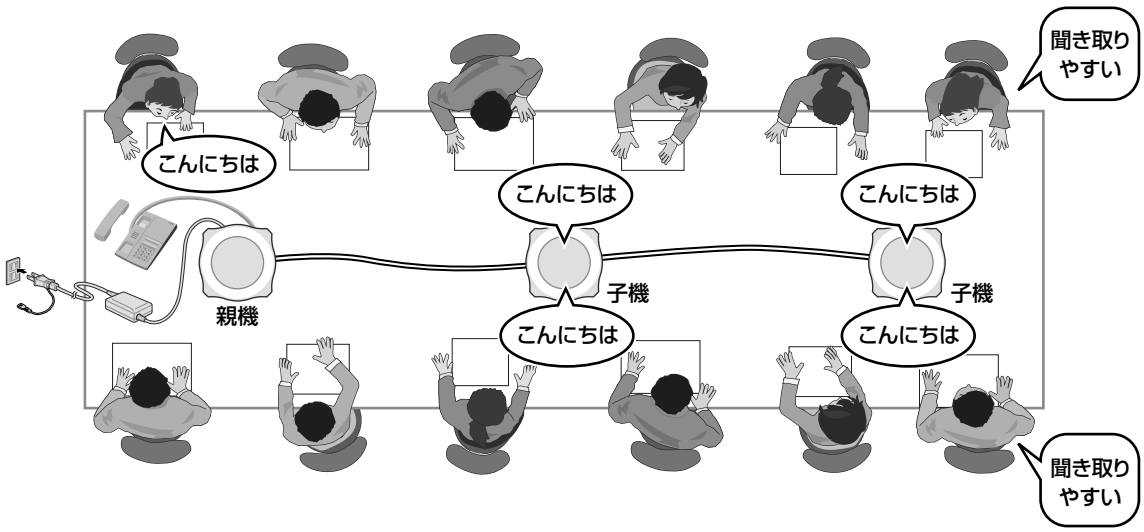
（次ページへ続く）

ワンポイント

● **会話アシスト機能を利用するには**

親機のマイクモードスイッチ（MIC MODE）（→ P43）を「手動設定モード＋会話アシスト機能（MANUAL+SPEAKER ASSIST）」に設定します。会話アシスト機能により、お話ししている人から離れた本商品から、お話ししている人の音声を送出します。離れた場所でもお話ししている人の音声が十分な音量で聞こえます。

マイクモードスイッチ（MIC MODE）の切り替えは親機で行ってください。



お知らせ

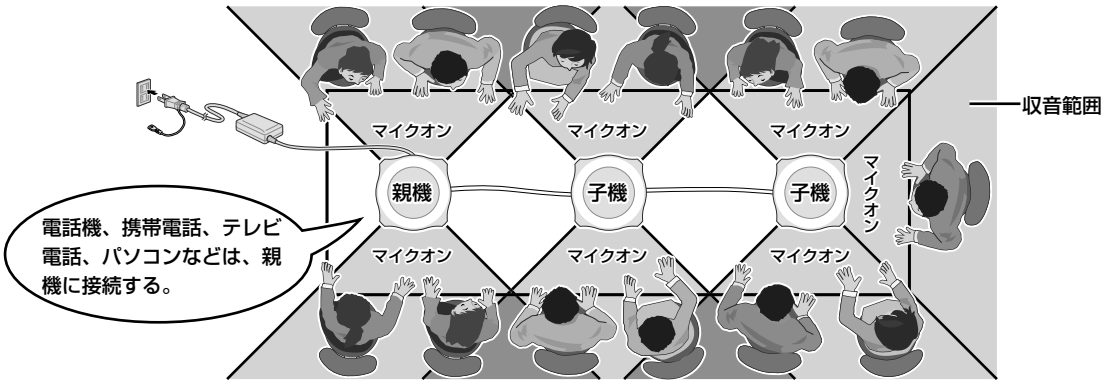
- 電源アダプタは親機に接続してください。
- 電源アダプタは、親機を含め本商品 3 台まで電源を供給できます。親機を含め本商品を 4 台以上接続するときは、電源アダプタを 2 個用意し、電源アダプタを親機と 4 台目の本商品に接続してください。
- カスケード接続ケーブルのコネクタには向きがあります。CASCADE OUT 端子や CASCADE IN 端子と、カスケード接続ケーブルのコネクタの向きを合わせて接続してください。
- カスケード接続ケーブルのコネクタは、CASCADE OUT 端子や CASCADE IN 端子に奥まで確実に差し込んでください。
- 本商品を複数台接続している場合は、親機または子機のマイクミュートボタン（MIC MUTE）を押すと、親機とすべての子機がマイクミュートします。元に戻すには、もう一度親機または子機のマイクミュートボタン（MIC MUTE）を押します。

複数台を設置するときの注意点

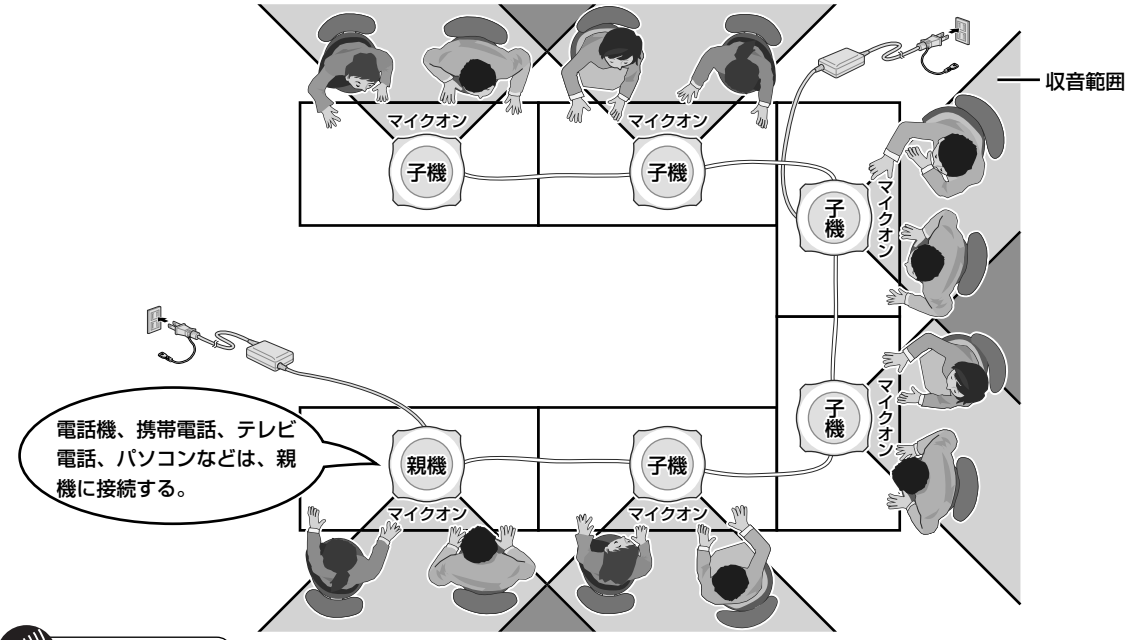
- カスケード接続ケーブルで接続されているすべての本商品が同じマイクモードで動作します。マイクモードの切り替えは、親機のマイクモードスイッチ（MIC MODE）（→ P43）で行ってください。
- マイクモードを「手動設定モード(MANUAL)」や「手動設定モード＋会話アシスト機能(MANUAL+SPEAKER ASSIST)」に設定した場合は、マイクの収音範囲を以下の設置例のように設定し、他の本商品が収音範囲に入らないようにしてください。
- マイクモードを「手動設定モード＋会話アシスト機能（MANUAL+SPEAKER ASSIST)」に設定した場合は、使い方によってハウリング（ピーと大きな音が鳴る）が発生することがあります。必ず以下の点に注意してご利用ください。
  - ・本商品間の距離を 3 m 以上離してください。
  - ・ハウリング（ピーと大きな音が鳴る）が発生しないスピーカ音量で使用してください。部屋の響きの大きさによっては、十分なスピーカ音量が出せない場合があります。
- マイクモードを「手動設定モード＋会話アシスト機能（MANUAL+SPEAKER ASSIST)」に設定した場合は、スピーカの音質が変化します。

複数台の設置例

● **長机に設置する場合**



● **コの字に設置する場合**



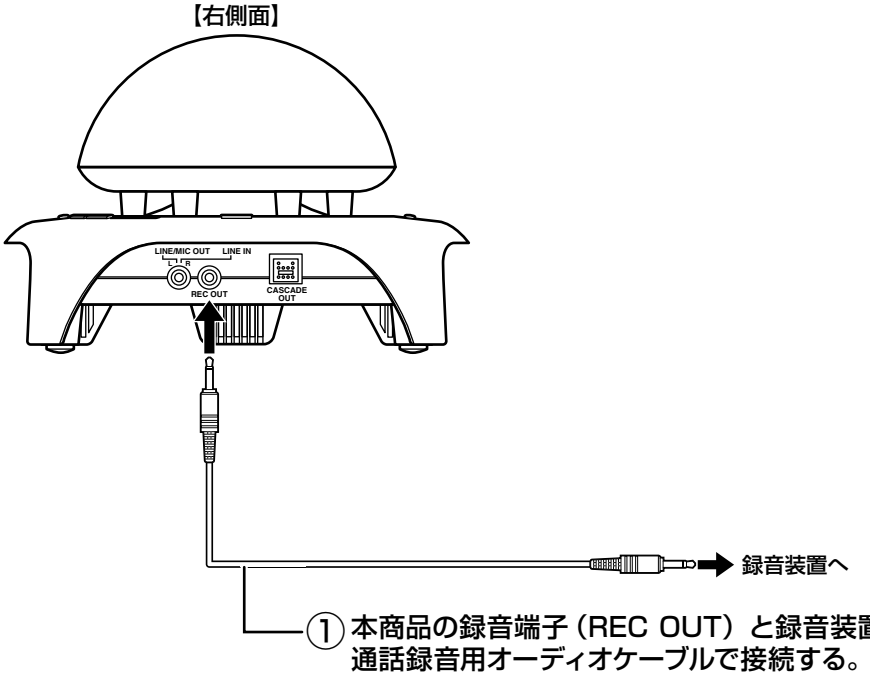
お知らせ

- 収音範囲は一例を示します。収音範囲外でも多少収音します。

通話を録音する

本商品の録音端子（REC OUT）に録音装置を接続することにより、通話を録音することができます。
市販の通話録音用オーディオケーブルをご用意ください。

録音装置を接続する



① 本商品の録音端子（REC OUT）と録音装置を通話録音用オーディオケーブルで接続する。

② 通話を録音するときは、録音装置側で録音の操作を行う。

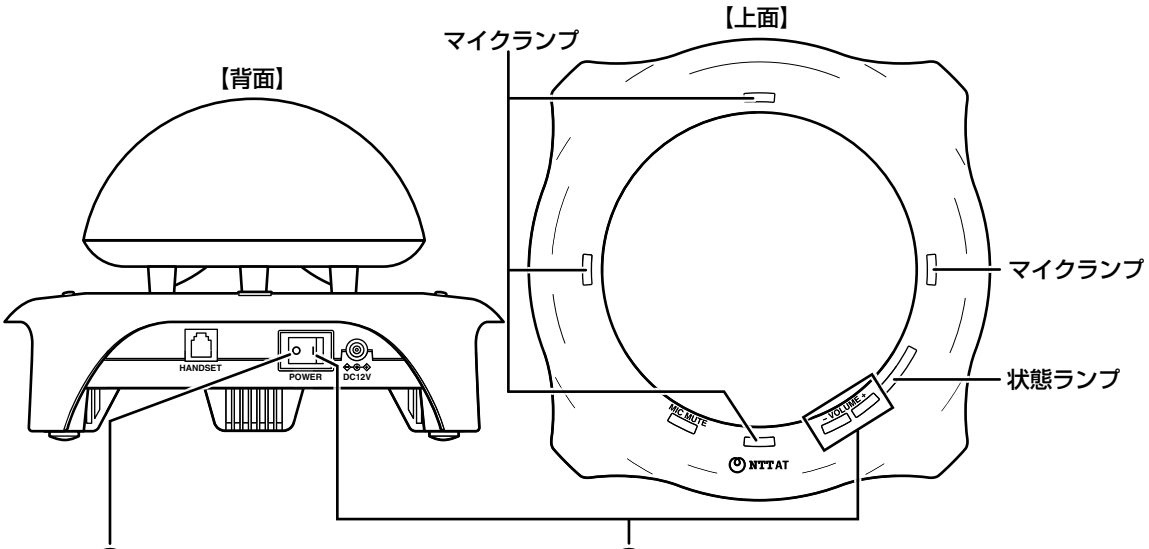
お知らせ

- 通話録音用オーディオケーブルは、市販のモノラルオーディオケーブル（3.5 mm プラグ⇔録音装置の端子と適合するプラグ）をご用意ください。3.5 mm プラグのステレオオーディオケーブルも使用可能ですが、音声出力はモノラルです。
- 本商品を複数台接続している場合は、親機の録音端子（REC OUT）に録音装置を接続してください。

付　録

お買い求め時の設定に戻す（初期化）

スピーカ音量とマイクのオン／オフをお買い求め時の設定に戻します。



① **電源スイッチ（POWER）の「○」を押して電源を切る。**

② **音量調整ボタン(VOLUME)の(＋)と(－)を押しながら電源スイッチ(POWER)の「｜」を押して電源を入れる。**
状態ランプとマイクランプが点滅するまで、音量調整ボタン(VOLUME)の(＋)と(－)を押したまま待ちます。

③ **音量調整ボタン(VOLUME)の(＋)と(－)を離す。**
スピーカ音量とマイクのオン／オフがお買い求め時の設定に戻ります。
・スピーカ音量「6」
・４つのマイク「オン」

トラブルシューティング

こんなとき	確認してください	参照ページ
相手側の声が聞こえない	本商品の電源は入っていますか？ → 電源を入れてください。	P18、21、23、24、44
	正しく接続されていますか？ → 接続を確認してください。	P18、20、22、24、44
	スピーカ音量が小さすぎませんか？ → スピーカ音量を大きくしてください。	P38
	相手側でマイクがオフになっていませんか？ → 相手側のマイクをオンにしてください。	―
スピーカから聞こえる音が小さい、または大きい	スピーカ音量が小さすぎたり、大きすぎたりしませんか？ → スピーカ音量を調整してください。 → スピーカ音量が適正になっている場合は、相手側のマイク感度を確認してください。	P38
	本商品に接続した電話機の受話音量が小さすぎたり、大きすぎたりしませんか？ → 本商品に接続した電話機の受話音量を調整してください。電話機で調整ができない場合は、底面の HANDSET IN VOLUME スイッチを切り替えてください。	P40
	本商品に接続した携帯電話の受話音量が小さすぎたり、大きすぎたりしませんか？ → 本商品に接続した携帯電話の受話音量を調整してください。携帯電話で調整ができない場合は、底面の LINE IN VOLUME スイッチを切り替えてください。	P41
	本商品に接続したテレビ電話装置などの音声出力レベルが小さすぎたり、大きすぎたりしませんか？ → 本商品に接続したテレビ電話装置などの音声出力レベルを調整してください。装置側で調整ができない場合は、底面の LINE IN VOLUME スイッチを切り替えてください。	P41
	本商品の LINE/MIC OUT 端子／ LINE IN 端子とパソコンのサウンドボードの音声入出力端子を接続している場合は、パソコンの音声出力レベルが小さすぎたり、大きすぎたりしませんか？ → 本商品に接続したパソコンの音声出力レベルを調整してください。パソコンで調整ができない場合は、底面の LINE IN VOLUME スイッチを切り替えてください。	P41
相手側から声が聞こえないと言われる	本商品の電源は入っていますか？ → 電源を入れてください。	P18、21、23、24、44
	正しく接続されていますか？ → 接続を確認してください。	P18、20、22、24、44
	お話ししている人がいる方向のマイクがオフになっていませんか？ → マイクボタンを押して、マイクをオンにしてください。	P43
	マイクがミュートになっていませんか？ → マイクミュートボタン（MIC MUTE）を押して、マイクをオンにしてください。	P39

こんなとき	確認してください	参照ページ
相手側から声が小さいと言われる	話しているときに状態ランプが適正レベルで点灯していますか？ → マイクに近づくか、大きい声で話してください。	P17
	本商品に接続したテレビ電話装置やパソコンなどの音声入力レベルが小さすぎませんか？ → 本商品に接続したテレビ電話装置やパソコンなどの音声入力レベルを大きくしてください。	ー
	LINE/MIC OUT MODE スイッチが正しく設定されていますか？（テレビ電話装置と接続している場合） → テレビ電話装置の音声入力端子が LINE 端子のときは、底面の LINE/MIC OUT MODE スイッチを「LINE」に切り替えてください。	P41
	LINE OUT ／ MIC OUT の音量が小さすぎませんか？（携帯電話やテレビ電話装置と接続している場合） → 底面の LINE/MIC OUT VOLUME スイッチを「M」（標準）または「H」（高）に切り替えてください。	P40
	HANDSET OUT の音量が小さすぎませんか？（電話機と接続している場合） → 底面の HANDSET OUT VOLUME スイッチを「M」（標準）または「H」（高）に切り替えてください。	P39
	相手側のスピーカ音量が小さすぎませんか？ → 相手側のスピーカ音量が小さすぎないかどうか、確認してください。	P38
相手側から声が大きい、声が割れていると言われる	話しているときに状態ランプが適正レベルで点灯していますか？ → マイクから離れるか、小さい声で話してください。	P17
	LINE/MIC OUT MODE スイッチが正しく設定されていますか？（携帯電話やテレビ電話装置と接続している場合） → 携帯電話に接続しているときやテレビ電話装置の音声入力端子が MIC 端子のときは、底面の LINE/MIC OUT MODE スイッチを「MIC」に切り替えてください。	P41
	LINE OUT ／ MIC OUT の音量が大きすぎませんか？（携帯電話やテレビ電話装置と接続している場合） → 底面の LINE/MIC OUT VOLUME スイッチを「L」（低）または「M」（標準）に切り替えてください。	P40
	HANDSET OUT の音量が大きすぎませんか？（電話機と接続している場合） → 底面の HANDSET OUT VOLUME スイッチを「L」（低）または「M」（標準）に切り替えてください。	P39
	相手側のスピーカ音量が大きすぎませんか？ → 相手側のスピーカ音量が大きすぎないかどうか、確認してください。	P38
エコーやハウリング（ピーと大きな音が鳴る）が気になる	そのまま通話を続けてください。徐々にエコーキャンセラが働きます。 → エコーキャンセラが働かない場合は、本商品の設置場所が適切か、スピーカ音量が大きすぎないかどうかを確認してください。	P38
	LINE/MIC OUT MODE スイッチが正しく設定されていますか？（携帯電話やテレビ電話装置と接続している場合） → 携帯電話に接続しているときやテレビ電話装置の音声入力端子が MIC 端子のときは、底面の LINE/MIC OUT MODE スイッチを「MIC」に切り替えてください。	P41
	LINE OUT ／ MIC OUT または LINE IN の音量が大きすぎませんか？（携帯電話やテレビ電話装置と接続している場合） → 底面の LINE/MIC OUT VOLUME スイッチまたは LINE IN VOLUME スイッチを「L」（低）または「M」（標準）に切り替えてください。	P40、41
	HANDSET OUT または HANDSET IN の音量が大きすぎませんか？（電話機と接続している場合） → 底面の HANDSET OUT VOLUME スイッチまたは HANDSET IN VOLUME スイッチを「L」（低）または「M」（標準）に切り替えてください。	P39、40

（次ページへ続く）

こんなとき	確認してください	参照ページ
相手側から雑音が気になると言われる	そのまま通話を続けてください。徐々にノイズリダクションが働きます。 → ノイズリダクションが働かない場合は、周囲雑音が大きくないか、相手側のスピーカ音量が大きすぎないかどうかを確認してください。	―
スピーカから聞こえる音が小さい、またはエコーがかかったように聞こえる（OSがWindows VistaのパソコンとUSB接続しているとき）	①「パソコンの設定を確認する（Windows Vista）」（→P26）の手順1～4を行ってください。 ② サウンド画面の［プロパティ］→［音の明瞭化］タブの順にクリックしてください。 ③［すべての音の明瞭化設定を無効にする］のチェックが外れていませんか？ →［すべての音の明瞭化設定を無効にする］にチェックを入れ、［OK］をクリックしてください。	―
複数台をカスケード接続した場合、マイクモードスイッチ（MIC MODE）をMANUAL+SPEAKER ASSISTにしたときにハウリング（ピーと大きな音が鳴る）してしまう	本商品の配置と収音範囲の設定が正しく行われていますか？ 本商品を正しく配置して、収音範囲の設定で対処してください。	P47
複数の機器（携帯電話と電話機など）を同時に接続して使用する場合に音の大きさが合わない	底面のLINE IN VOLUMEスイッチ、LINE/MIC OUT VOLUMEスイッチやHANDSET IN VOLUMEスイッチ、HANDSET OUT VOLUMEスイッチで音量レベルを調整してください。 パソコンやテレビ電話装置を接続している場合は、パソコンやテレビ電話装置の音声入力レベル、音声出力レベルを調整してください。	P39、40、41
複数台をカスケード接続したときに、一部の本商品で電源が入らない	親機に電源アダプタを接続していますか？ → 親機に電源アダプタを接続しているか確認してください。	P45、46
	子機の電源スイッチ（POWER）の「｜」側を押して電源を入れていますか？ → 子機の電源を入れてください。	P44
	親機に本商品を3台以上接続していませんか？ → 電源アダプタは、親機を含め本商品3台まで電源を供給できます。親機を含め本商品を4台以上接続するときは、電源アダプタを2個用意し、電源アダプタを親機と4台目の本商品に接続してください。	P45、46
	カスケード接続ケーブルが正しく接続されていますか？ → 接続を確認してください。	P44、45、46
複数台をカスケード接続したときに、マイクモードスイッチ（MIC MODE）の設定が反映されない	親機でマイクモードスイッチ（MIC MODE）を設定していますか？ → マイクモードスイッチ（MIC MODE）の設定は親機で行ってください。	P43、47
複数台をカスケード接続したときに、一部の本商品から音が出ない。一部の本商品から相手に音が伝わらない	親機に電話機、携帯電話、パソコンを接続していますか？ → 親機に電話機、携帯電話、パソコンを接続してください。	P45
	カスケード接続ケーブルが正しく接続されていますか？ → 接続を確認してください。	P44、45、46
複数台をカスケード接続したときに、一部の本商品から相手に音が伝わらない	電源を入れるときに、親機の電源を入れてから子機の電源を入れていますか？ → 電源を入れるときは、親機の電源を入れてから子機の電源を入れてください。	P44、45
電話機と接続した際にハウリング（ピーと大きな音が鳴る）する	スピーカレベルが大きすぎませんか？ スピーカ音量を「6」に調整したあとに、スピーカレベルが適正になるように、底面のHANDSET IN VOLUMEスイッチを調整してください。調整が終わったら、好みの音量にスピーカ音量を調整してください。	P38、40
	マイクレベルが大きすぎませんか？ 底面のHANDSET OUT VOLUMEスイッチで音量レベルを合わせてください。	P39

こんなとき	確認してください	参照ページ
携帯電話接続時に相手側から声が大きすぎるといわれる	LINE/MIC OUT MODE スイッチが「LINE」になっていませんか？ → 底面の LINE/MIC OUT MODE スイッチを「MIC」に切り替えてください。	P41
テレビ電話装置接続時に、相手側から声が大きすぎる、または小さすぎるといわれる	LINE/MIC OUT MODE スイッチが正しく設定されていますか？ → テレビ電話装置の音声入力端子がマイク入力端子のときは、底面の LINE/MIC OUT MODE スイッチを「MIC」に切り替えてください。 テレビ電話装置の音声入力端子がライン入力端子のときは、底面の LINE/MIC OUT MODE スイッチを「LINE」に切り替えてください。	P41

索　引

●英数字

3 地点電話会議 10
CASCADE IN 端子 13
CASCADE OUT 端子 13
HANDSET IN VOLUME スイッチ 14
HANDSET OUT VOLUME スイッチ 14
LINE IN VOLUME スイッチ 14
LINE IN 端子 13
LINE/MIC OUT MODE スイッチ 14
LINE/MIC OUT VOLUME スイッチ 14
LINE/MIC OUT 端子 13
USB ケーブル 8
USB 接続 24
USB ポート 13

●ア行

エリア収音機能 11
オーディオケーブル ..... 8、22
音量調整ボタン 12

●カ行

会話アシスト機能 ..... 11、42
カスケード接続 44
カスケード接続ケーブル 8
携帯電話 20
携帯電話接続ケーブル 8

●サ行

自動追尾モード 42
収音範囲 42
手動設定モード 42
仕様 55
状態ランプ ..... 12、15
初期化 49
ステレオオーディオケーブル 8
スピーカ 12
スピーカ音量 38
スピーカレベル ..... 17、40、41
接続
　携帯電話と接続する 20
　テレビ電話と接続する 22
　電話機と接続する 18
　パソコンと接続する 24
　録音装置と接続する 48

●タ行

通話録音 48
通話録音用オーディオケーブル 8
テレビ電話 22
電源アダプタ 8
電源アダプタ接続端子 14
電源スイッチ 14
電話機 18
トラブルシューティング 50

●ハ行

パソコン
　接続する 24
　設定を確認する（Windows Vista） 26
　設定を確認する（Windows XP） 30
ハンズフリー通話 ..... 9、34
ハンドセットコード差込口 14

●マ行

マイク ..... 12、13、14
マイクアウト 41
マイクボタン ..... 12、43
マイクミュート 39
マイクミュートボタン ..... 12、39
マイクモード ..... 42、43
マイクモードスイッチ ..... 12、42
マイクランプ ..... 12、15、16
マイクレベル ..... 17、39、40
ミュート 39

●ラ行

ラインアウト 41
ランプ表示 15
録音端子 ..... 13、48

仕　様

項目	仕様
USB ポート	USB1.1 フルスピード／ AC97 準拠
ラインイン	φ 3.5 mm ステレオミニジャック （ラインアウト、マイクアウトと兼用） 入力インピーダンス 30K Ω以上
ラインアウト	φ 3.5 mm ステレオミニジャック （ラインイン、マイクアウトと兼用） 出力インピーダンス 150 Ω以下
マイクアウト	φ 3.5 mm ステレオミニジャック （ラインイン、ラインアウトと兼用） 出力インピーダンス 150 Ω以下
録音端子	φ 3.5 mm ミニジャック 出力インピーダンス 150 Ω以下
ハンドセットコード差込口	4 ピンモジュラジャック
マイク	本体に内蔵
スピーカ	本体に内蔵
VCCI	クラス B
周波数帯域	100 Hz ～ 7 KHz
エコー消去時間	128 ms
使用電源	AC100 V ± 10 V（50 ／ 60 Hz） （専用電源アダプタ使用）
消費電力	最大 40 W（最大 90 VA）
外形寸法	約 201 mm（W）×約 201 mm（D）×約 140 mm（H）
質量（本体）	約 0.85 kg
使用条件	温度：0 ℃～ 40 ℃ 湿度：20 %～ 80 %（結露しないこと）
対応 OS	・ Windows XP Home Edition（SP3） Windows XP Professional（SP3） ・ Windows Vista Home Basic Windows Vista Home Premium Windows Vista Business Windows Vista Ultimate の各日本語版の 32 ビット版

920274A2

お問い合わせ先

NTTアドバンステクノロジ株式会社

リアルトーク担当
〒210-0007 神奈川県川崎市川崎区駅前本町 12-1　川崎駅前タワー・リバークビル
TEL：044-220-2131　　FAX：044-220-2025
e-mail：realtalk@ml.ntt-at.co.jp
URL：http://www.ntt-at.co.jp/product/ec/

この取扱説明書は、森林資源保護のため、再生紙を使用しています。